授 業 計 画

平成30年度



福島学院大学大学院 心理学研究科 臨床心理学専攻

目次 contents

1.	教育課程表		1
2.	到達目標およびカリキュラムツリー		3
3.	シラバス		6
	臨床心理学特論 I	··· 渡 邉 勉	 6
	臨床心理学特論Ⅱ	渡部敦子	 8
	臨床心理面接特論 I	··· 岸/渡部/木村	 10
	(心理支援に関する理論と実践)		
	臨床心理面接特論Ⅱ	杉山雅彦	 12
	心理学研究法特論*	… 梅宮れいか	 14
	臨床心理学研究法特論	··· 杉山/佐藤/木村	 17
	心理統計法特論	和 田 裕 一	 19
	発達心理学特論	神谷哲司	 21
	教育心理学特論*	… 梅宮れいか	 24
	家族心理学特論*	渡部敦子	 27
	(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)		
	職場メンタルヘルス特論	茂 木 積 雄	 29
	発達障害児心理学特論*	··· 板垣健太郎	 33
	(福祉分野に関する理論と支援の展開)		
	発達障害児心理学演習*	··· 板垣健太郎	 35
	精神医学特論*	星野仁彦	 37
	(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		
	精神薬理学特論	一 茂 木 積 雄	 40
	グループ・アプローチ特論	岸 良範	 43
	心理療法特論	… 渡部純夫	 45
	臨床心理地域援助特論	··· 須 田 誠	 48
	学校臨床心理学特論	杉山雅彦	 51
	臨床心理査定演習 I	** 木村泰博	 53
	(心理的アセスメントに関する理論と実践の意義)		
	臨床心理査定演習Ⅱ	··· 渡 邉 勉	 56
	臨床心理基礎実習	··· 岸 /渡部	 57
	臨床心理基礎実習	一杉山/佐藤	 60
	臨床心理実習	··· 渡 邉 勉	 63
	臨床心理実習	** 木 村 泰 博	 66
	発達障害児援助実習	板垣健太郎	 69
	発達障害児援助実習	··· 佐藤佑貴	 72
	心理実践実習B	··· 杉山/板垣/木村	 75
	心理実践実習B	一岸/渡部/佐藤	 78
	臨床心理課題研究 I	星野仁彦	 80

臨床心理課題研究 I	 杉	山 雅	彦	 83
臨床心理課題研究 I	 渡	邉	勉	 85
臨床心理課題研究 I	 岸	良	範	 87
臨床心理課題研究 I	 渡	部 敦	子	 89
臨床心理課題研究 I	佐	藤佑	貴	 91
臨床心理課題研究Ⅱ	星	野 仁	彦	 93
臨床心理課題研究Ⅱ	杉	山 雅	彦	 95
臨床心理課題研究Ⅱ	 渡	邉	勉	 97
臨床心理課題研究Ⅱ	岸	良	範	 99
臨床心理課題研究Ⅱ	渡	部 敦	子	 101
臨床心理課題研究Ⅱ	佐	藤佑	貴	 103
臨床心理課題研究Ⅲ	杉	山 雅	彦	 105
臨床心理課題研究Ⅲ	渡	部 敦	子	 107
臨床心理課題研究Ⅲ	 佐	藤佑	貴	 109
臨床心理課題研究IV	 杉	山 雅	彦	 111
臨床心理課題研究IV	渡	部 敦	子	 113
臨床心理課題研究IV	佐	藤佑	貴	 115

*大学院心理学研究科こども心理専攻との共通科目です。

1. 教育課程表

平成 29 年度以前入学生用

拉米 47 口	講義	単位	立数	/#± ±≠_
授業科目	形態	必修	選択	備考
専門科目				
臨床心理学基礎科目				
臨床心理学特論 I	講義	2		専門科目は、必修科目 24 単位およ
臨床心理学特論Ⅱ	講義	2		び選択科目より各群2単位以上、計
臨床心理面接特論 I	講義	2		10単位以上修得する。(ただし、心理学系の学報、学科本業表別は
臨床心理面接特論Ⅱ	講義	2		理学系の学部・学科卒業者以外は、
臨床心理査定演習 I	演習	2		この他に臨床心理基礎演習2単位を
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	2		必修とする。) 修了要件は合計 34 単位以上(上記
臨床心理基礎実習I	実習	1		ただし書きに該当する者は36単位
臨床心理基礎実習Ⅱ	実習	1		以上)を修得し、修士論文の審査お
臨床心理実習	実習	2	0	よび試験に合格するものとする。
臨床心理基礎演習	演習		2	よりPM級(C日付するものとする。
(A群)心理学研究基礎科目				
心理学研究法特論	講義		2	
心理統計法特論	講義		2	
臨床心理学研究法特論	講義		2	
(B群)基礎心理学科目				
発達心理学特論	講義		2	
教育心理学特論	講義		2	
(C群)応用心理学科目				
家族心理学特論	講義		2	
職場メンタルヘルス特論	講義		2	
(D群)精神医学関連科目				
精神医学特論	講義		2	
精神薬理学特論	講義		2	
発達障害児心理学特論	講義		2	
発達障害児心理学演習	演習		2	
(E群)臨床心理学応用科目	3# 3 <u>4</u>			
心理療法特論	講義		2	
発達障害児援助実習	実習		2	細胞研究は 研究や造のとは のがロ
学校臨床心理学特論	講義		2	課題研究は、研究指導のための科目とする。
グループ・アプローチ特論	講義		2	290°
臨床心理地域援助特論	講義		2	
課題研究				
臨床心理課題研究 I	演習	2		
臨床心理課題研究Ⅱ	演習	2		
臨床心理課題研究Ⅲ	演習	2		
臨床心理課題研究IV	演習	2		
	•			

平成30年度入学生用

授業科目		 立数	(++: -†y.
授美科目	必修	選択	備考
臨床心理学特論 I	2		
臨床心理学特論Ⅱ	2		修了要件は、必修科目 24 単
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	2		位、選択科目 10 単位以上、
臨床心理面接特論Ⅱ	2		計 34 単位以上を修得し、修
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2		士論文の審査および試験に
臨床心理査定演習Ⅱ	2		合格するものとする。
臨床心理基礎実習	2		
臨床心理実習 I (心理実践実習 A)	1		
臨床心理実習Ⅱ	1		
心理実践実習B		5	
心理実践実習C		4	
心理統計法特論		2	】 トレずれか2単位必修
臨床心理学研究法特論		2	
発達心理学特論		2	
教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)		2	J
家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)		2	
職場メンタルヘルス特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2	この内より2単位必修
犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2	J
精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2	
発達障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)		2	
心理療法特論		2	
学校臨床心理学特論		2	J
心の健康教育に関する理論と実践		2	
臨床心理課題研究 I	2		
臨床心理課題研究Ⅱ	2		課題研究は、研究指導のた
臨床心理課題研究Ⅲ	2		めの科目とする。
臨床心理課題研究IV	2		

2. 到達目標およびカリキュラム・ツリー

授業等の履修によって、学生のみなさんが身につけるものとして本専攻では以下の5つを 設定しています。また、各授業がどの目標につながるのかについて、シラバス内に記載し てありますのでご確認ください。次ページには、到達目標と授業との関連を示すカリキュ ラム・ツリーを策定しています。こちらを参考にしていただき、授業科目の履修計画をた ててください。

到達目標

- 1) 臨床心理学に関連する基礎的・専門的知識を修得する。
- 2) 対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。
- 3) 問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力を持つ。
- 4) 個別・集団・地域等、様々な臨床的支援の対象に関して、見立ておよび介入できる力を養う。
- 5) 臨床心理学的視点から問題意識を持ち、臨床実践に貢献する研究を実施する力を養う。

カリキュラム 福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻 表2.

人材育成の	現の		心の問題の	心の問題の今日的な課題に対	応できる、	で専門的な実践創	高度で専門的な実践能力と研究能力を養い、	養い、心理的支援	心理的支援に習熟した人材を育成する。	を育成する。	
四名	E.				臨床実践能力	践能力				研究能力	け
到達目標	職		2) (1) (2) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	臨床心理学に関連する基礎的・専門的知識を修得する。 対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。 問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力を持つ。 個別・集団・地域等、様々な臨床的支援の対象に関して、見立ておよび介入できる力を養う。	基礎的・専門的知識を修得する。 ・総合的に理解する視点を持つ。 り具体的方針を提案できる力を打 ま々な臨床的支援の対象に関して	<u>r</u> 修得する。 現点を持つ。 できる力を持つ。 は象に関して、見立い	ておよび介入できるナ	7を養う。		5) 臨床心理学的視点から問題意識を 持ち、臨床実践に貢献する研究を実 施する力を養う。	なから問題意識を 該献する研究を実
						修士部	修士論文審查				
				•				+		•	
		・被援助者に対し. ・アセスメントに、 ・ケース記録や力:	•被援助者に対して適切な振る舞いができる。 •アセスメントによって得られた見立てをもと •ケース記録やカンファレンス資料の作成に1	・被援助者に対して適切な振る舞いができる。 ・アセスメントによって得られた見立てをもとに、具体的な ・ケース記録やカンファレンス資料の作成において、適切に	s支援方針が立てられる。 c記録することができる。	ነ ል 。 ፣ ል.	・心理臨床の現場で流ついて説明できる。	心理臨床の現場で活用される理論・実践的知識・技能について説明できる。	長時的知識・技能 に	・問いの妥当性、手法の適切さ、結論 の論理性を備えた研究論文が執筆で きる。・研究成果や研究計画について、明快 にプレゼンテーションができる。	手法の適切さ、結論 た研究論文が執筆で 計画について、明校・ションができる。
		臨床心理学	臨床心理学基礎科目(必修)		臨床心理学	臨床心理学応用科目(E群)		精神医学関連科目(D群)	応用心理学科目(C群)		課題研究
2年生	後題		聯床心理実習			発達障害児援助実習	馬床心理地域服別特論 グループ・アフローチ特論		職場メンタルヘルス特論		1
	前期						学校臨床心理学特論 心理療法特論	精神薬理学特論	家族心理学特論		
				1		+		←			-
		・代表的な臨床心 理学的理論につ いて説明できる。		・積極的に被援助者と関わることができる。基本的な面接技法を用いてカウンセリングを行うことができる。	アセスメントの 視点を理解する とともに、代表 的な心理検査を 実施できる。	・人間の基本的な心理特性や、 ・発達障害に関する知識や支援 きる。		 梅里について説明できる。 方法適用にあたっての注意点	ご	・臨床心理学的研究 を行うための問い のたて方や、研究 方法について概略 を説明できる。	
			臨床心理学	臨床心理学基礎科目(必修)		ţ	精神医学関連科目(D群)	群)	基礎心理学科目(B群)	心理学研究基礎科目(A群)	
	後期	臨床心理学特論Ⅱ	臨床心理面接特論I	1 臨床心理基礎実習1	臨床心理查定演習II	発達障害児心理学演習			発達心理学特論	心理統計法特論	
1年生		-	-	←	-	•			←		L
	野温	臨床心理学特論	臨床心理回接特論1	[臨床心理基礎実習]	臨床心理查定演習 1	発達障害児心理学特論	精神医学特論		教育心理学特論	臨床心理学研究法特論 心理学研究法特論	
					臨床心理基礎演習						

平成30年度入学生用

表.3 福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻 カリキュラム・ツリー

人材育成の目的

心の問題の今日的な課題に対応できる、高度で専門的な実践能力と研究能力を養い、心理的支援に 習熟した人材を育成する。

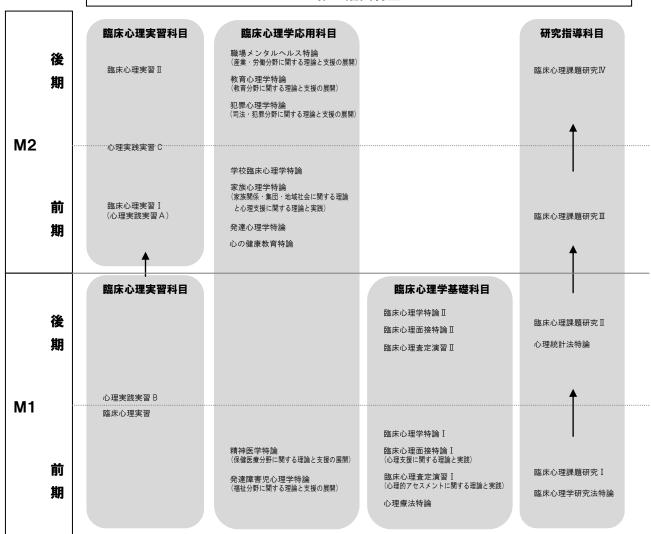
到達目標

- ・臨床心理学に関連する基礎的・専門的知識を修得する。
- ・対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。
- ・問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力を持つ。
- ・個別・集団・地域等、様々な臨床的支援の対象に関して、見立て および介入できる力を養う。

到達目標

・臨床心理学的視点から問題意識を持ち、 臨床実践に貢献する研究を実施する 力を養う。

修士論文審査



3. シラバス

心理学研究科臨床心理専攻 授業計画

平成30年度

授業科目名	臨床心理	日学作	┴⋛◇ T	授業形態・単位数	講義・2 単位
1文未行日石		E一个作	才市册 1	開講年次	1年次
	職名:教授			開講期	前期
担当教員	ふりがな			授業回数	15 回
	氏名:渡邉 勉			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパ	ス	授業時間以外	トの必要な学修時間	60 時間
卒業・資	授業	科目区分	必修・選択必修	・選択の別	
修了	専	門科目	必修		
臨床心理士	専門科目		必修		
公認心理師	専門科目 選択				
オフィスアワー・	初回の	授業時に説明	します		

【授業の概要】

本授業の目標は、心理臨床家としてクライエン トの依頼に応じるために必要な基礎知識と対 応力を身に着けることである。教員自身の臨床 事例・素材を使った講義と、受講者が基本テキ ストおよび文献から理解したことの発表とを 組み合わせて、お互いの理解度を確かめながら 双方向的にすすめる。

		【授業の概要との対応項目】
0	A	知識
0	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
0	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
		まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発
0	Н	信力
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
0	K	課題対処力
0	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
クライエントに関わることの意味と重要性を説明できる	目標	A、H	
多くの心理療法の根底にある概念を理解して心理臨床活動に実践 できる	目標	B, I, J, K, L	
心理臨床家の倫理と責任を自覚して事例研究にまとめることがで きる	目標	C, D	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 「生きぬく」: 心理療法の原点を考える	資料配布 全体討議	資料学習
2	臨床事例から学ぶ①:「事実」の奥行き	資料配布 全体討議	資料学習 担当者準備

		資料配布	資料学習
3			
3	臨床事例から学ぶ②:「痛みの文化史」	担当者発表	担当者準備
		資料配布	資料学習
4	クライエントに会う前の準備	担当者発表	担当者準備
		資料配布	資料学習
5	話を聴く・尋ねる・わからないことを整理す	担当者発表	担当者準備
	3		12 2 1 - //10
			資料学習
	最快		
6	感情転移	担当者発表	担当者準備
		Virtual Times	Viet Not 201
	NV leads	資料配布	資料学習
7	逆転移	担当者発表	担当者準備
		資料配布	資料学習
8	抵抗:問題の本質	担当者発表	担当者準備
		. – 23211	
		資料配布	資料学習
9	 介入:セラピストの受動性・能動性	担当者発表	担当者準備
	万八、七万七八八00000000000000000000000000000000	担当有无权	1531441
			資料学習
10	 夢を扱う	担当者発表	担当者準備
10	安と奴リ	担ヨ有発衣 	担ヨ有準備
		次业量力	次业学羽
,,	<u>*□ → ↓</u>	資料配布	資料学習
11	親面接	担当者発表	担当者準備
		When that men I .	VA-101 W 32
		資料配布	資料学習
12	終結:治るということ	担当者発表	担当者準備
		資料配布	資料学習
13	事例研究を読む①	担当者発表	担当者準備
		資料配布	資料学習
14	事例研究を読む②	担当者発表	担当者準備
	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1		11 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1
			資料学習
15	 事例研究のまとめ方	担当者発表	報告書作成
10	ず クツサリフレッノよこツノノノ 	担ヨ有冤衣	報百音TFIX

担当箇所のレジメ・発表の内容と質 70%

授業参加態度(積極的発言、意欲、主体性)30%

【教科書】書 名: 精神分析的心理療法の実践―クライエントに出会う前に―

著者名:馬場禮子発行所:岩崎学術出版価格:3200円(税別)

【その他補足事項】

教科書は教員の指示があるまで購入しないこと

参考書は随時紹介します。

			学供シ IT		授業形態・単位数	講義・2 単位	
汉来行日右	M M M 平 子 付 冊 II		開講年次	1年次			
職名:准教授					開講期	後期	
担当教員	ふりがな				授業回数	15 回	
氏名:渡部敦子				期末試験の有無	無		
開講キャンパス	駅前キャンパス 授業		授業時間以外	· (T)	必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分			必修・選択必修・選択の別		
修了 臨床心理士		専門科目		必修			
		専門科目			必修		
公認心理師		専門科目			選択		
オフィスアワー・メールアドレス等			ィスアワーにつ) V	いては初回授業時に訪	説明します	

本授業では、心理面接とはどのような行為で ありどのような経過を辿るのかについて、基礎 的なところを学ぶ。また、実際に心理面接で話 を聴くにあたり、どのような問題が起こるの か、何に配慮する必要があるのかについて討議 する。さらに、自己理解として、自らの価値観 や対人認知、メンタルヘルスについて理解を深 める。

		【授業の概要との対応項目】
0	Α	知識
	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
0	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
		まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発
	Η	信力
\circ	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	$_{ m L}$	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	• -> ->	概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
心理面接の基本を理解する。	目標	A, C, D, I, J
心理面接を行うにあたり、考慮すべき各種問題について理解する。	目標	A, C, J
自分自身についての理解を深める。	目標	A, C, J

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 自身の志望動機の振り返り	配布資料 ディスカッション	
2	カウンセラーの持つ人間観、価値観 :心理面接に与える影響について	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
3	対人援助職の適性について	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
4	心理面接の基礎(1) : 枠組みやプロセス	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む

	心理面接の基礎(2)	配布資料	配布資料を読
5	: 年代による特徴	ディスカッション	計削具付る配
5	:午八による特徴	ブイベルツンヨン	ولي ا
	心理面接の基礎(3)	配布資料	配布資料を読
6	: 人を理解するということ	ディスカッション	む
	インテーク面接について	配布資料	配布資料を読
7	: 何を聴き何を伝えるか	ディスカッション	む
	面接記録の取り方と意味	配布資料	配布資料を読
8		ディスカッション	む
	様々なクライエントをどう理解するか	配布資料	配布資料を読
9	: 抵抗	ディスカッション	む
	事例検討とは	配布資料	配布資料を読
10	: その意義と架空事例による検討	ディスカッション	む
	心理面接における倫理(1)	配布資料	配布資料を読
11	: 倫理綱領を読む	ディスカッション	む
	心理面接における倫理(2)	配布資料	配布資料を読
12	: 事例に潜む倫理的課題に注目する	ディスカッション	む
)如子は)ロエッショ用 】マエロ部ルッルが	T7	エコーケンタック チェナ
1.0	心理面接と見立てに関わる対人認知の特徴	配布資料	配布資料を読
13	: 社会心理学の知見から	ディスカッション	む
	対し極い時代事者のオンカルネルフ	五十次 率	また次率 たき
1.4	対人援助職従事者のメンタルヘルス	配布資料	配布資料を読した。
14		ディスカッション	む
	まとめと振り返り	配布資料	配布資料を読
15	よ C ツ/ C 1灰 ソ 込 ソ	1	
19		ディスカッション	む

授業への参加態度(ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度)50% 小レポート (随時行う) 30% まとめレポート 20%

【教科書】使用しない。

【参考書】書 名:臨床心理学実践の基礎その1 基本的姿勢からインテーク面接まで

著者名:森田美弥子・金子一史

発行所: ナカニシヤ出版 価格: 2500円(税別)

	 臨床心理面接特論 I		授業形態・単位数	講義・2 単位	
授業科目名	(心理支援に関する理論と実践)			開講年次	1年次
	職名:教授 准	教授 准教授 助教		開講期	前期
担当教員	ふりがな			授業回数	15 回
			木村泰博	期末試験の有無	無
開講キャンパス	ノパス 福島駅前キャンバ		授業時間以外	外の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修	・選択の別
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		必修	
公認心理師		専門科目選択			
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーに	ついては初回授業時に	説明します。

本講義では、臨床心理実践における基本的態 度・技法について学ぶことを目的とする。心理 療法の幾種類についてその概略を学んだあと、 全ての流派に通底すると考えられる話の聴き 方について体験的に身につける。さらに、行動 論的心理療法、精神力動的心理療法について解 説する。

	【授業の概要との対応項目】						
0	Α	知識					
0	В	技術・技能					
	С	論理的思考力					
	D	文章表現力					
	E	表情及び身体表現力					
	F	感性及び感動表現力					
	G	協働能力					
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力					
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力					
0	J	多様性への理解力、応用力					
	K	課題対処力					
0	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力					

【授業の到達目標】	• -> ->	機要・到達目標との対応 受講して得られる力)
心理面接における話の聴き方について、その基礎的技法を身につ ける	目標	A, B, J, L
行動論的心理療法について理解する	目標	A, B
精神力動的心理療法について理解する	目標	A, B
	目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	臨床心理学とは何か/臨床心理面接とは何か か オリエンテーション (渡部)	資料をもとにディスカ ッション	
2	心理療法の様々な理論/概論(1) (渡部)	各自の分担部分の発表と討議	分担部分の資 料作り
3	心理療法の様々な理論/概論(2) (渡部)	各自の分担部分の発表と討議	分担部分の資 料作り

	心理療法の様々な理論/概論(3)	各自の分担部分の発表	分担部分の資
4	(渡部)	と討議	料作り
	クライエントの観察	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
5	共感と受容について(渡部)	ッション	め読んでくる
	話の聴き方(1)傾聴の技術(渡部)	ロールプレイとディス	資料をあらかじ
6		カッション	め読んでくる
_	話の聴き方(2)深く聴き取る(渡部)	ロールプレイとディス	資料をあらかじ
7		カッション	め読んでくる
0	話の聴き方(3)その他の技術(渡部)	ロールプレイとディス	資料をあらかじ
8		カッション	め読んでくる
0	話の聴き方(4)問題の定義づけと目標設定	ロールプレイとディス	資料をあらかじ
9	(渡部)	カッション	め読んでくる
10	行動論に基づく心理療法(木村)	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
10		ッション	め読んでくる
11	認知論に基づく心理療法(木村)	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
11		ッション	め読んでくる
12	マインドフルネス的な心理療法(木村)	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
12		ッション	め読んでくる
13	精神分析及び精神分析的心理療法の基礎理	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
13	論(岸)	ッション	め読んでくる
14	精神分析的心理療法の面接技法の特徴(岸)	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
14		ッション	め読んでくる
15	精神分析的心理療法の面接の実際(岸)	資料をもとにディスカ	資料をあらかじ
19		ッション	め読んでくる

授業への参加度(ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度等)70% 分担発表の内容 30%

【教科書】使用しない。

【参考書】書 名:耳の傾け方-こころの臨床家を目指す人たちへ

著者名:松木邦裕

発行所:岩崎学術出版社

価格:2700円(税別)

授業科目名	哈中 心神	且面接特論Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2 単位
汉来行日右				開講年次	1年次
	職名:教授			開講期	後期
担当教員	城石・教技			授業回数	15 回
				期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		必修	
公認心理師		専門科目 選択		Į	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

臨床の場に現れる方達は何か困り事を持って います、したがって、変化することに動機づけ を持っていると言えます。ただし、しばしばそ の変化は明確に生じず、臨床の場で混乱が生じ ます。ここでは、「変化」「動機づけ」をキーワ ードに、主として認知行動論的な観点から分析 し、理解を進めます。また問題別に発表を課し、 その議論の中で臨床場面(面接場面)に関する理 解を深めていきます。

_							
	【授業の概要との対応項目】						
	0	A	知識				
	0	○ B 技術・技能					
C 論理的思考力							
		D	文章表現力				
E 表情及び身体表現力							
F 感性及び感動表現力							
		G	協働能力				
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
		Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
	0	J	多様性への理解力、応用力				
	0	K	課題対処力				
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】		概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
臨床心理学、特に面接に関して基礎的・専門的知識を習得	目標	A,B
面接の対象を多角的、実証的に理解する視点を持ち、発表、議論 する	目標	K
臨床的対象に関して、見立てや介入の基礎を確立する	目標	A,B,J
	目標	

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
		オリエンテーション	不安に関する
1	オリエンテーション		検討 資料の検討
			貝がパクリアリ
		困っていることに関す	接近と回避に
2	 回避と接近「困っていること」の「問題 講義	る実際の行動の議論	関する見直し
	四姓と汝川「四づ(V'ること」の「미咫」 講我 		
		マルショロ レッジン	
	アウトは アウギルドも吹い気がおこても、 誰美	不安に関する議論	不安と回避行動
3	不安とは、不安が生じた際に何が起こるか 講義		に関する検討
			発表準備

4	回避行動の問題 講義	回避行動の機能に関する議論	回避の臨床的 意味の検討 発表準備
5	変化する事への抵抗とそれに関する面接 者の役割 講義 グループワーク	模擬的な面接の実施、それに関するグループワーク	面接場面の再 吟味 発表準備
6	不安症 発表	発表と議論	議論の再検討
7	不安症 発表	発表と議論	議論の再検討
8	うつ 発表	発表と議論	議論の再検討
9	うつ 発表	発表と議論	議論の再検討
10	集団の問題 発表	発表と議論	議論の再検討
11	集団の問題 発表	発表と議論	議論の再検討
12	子どもの問題 発表	発表と議論	議論の再検討
13	子どもの問題 発表	発表と議論	議論の再検討
14	動機づけ面接 模擬面接とグループワーク	模擬面接とグループワーク	面接記録のまとめ
15	授業のまとめ 面接の機能分析 議論	議論	授業の見直し

本特論では、参加者に複数回の発表を課す、この発表に関しては専門的なレベルと発表後の議論、質疑応答に関する対応を中心に評価します。全体の70%がこれにあたります。 また議論時の参加の積極性や論理性に関して30%の評価をします。

【教科書】使用しません。

授業科目名	心理学研究法特論			授業形態・単位数	講義・2 単位	
1文条件日右				開講年次	1年次	
	職名:兼担教授 担当教員 よりがな			開講期	前期	
担当教員				授業回数	15 回	
	氏名:梅宮 れいか		期末試験の有無	無		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別		
修了		専門科目		選択		
臨床心理士			専門科目	選択		
公認心理師			専門科目選択			
オフィスアワー・メールアドレス等			ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。	

【授業の概要】		【授業の概要との対応項目】			
科学的に探求する論理的思考力を科学哲学にお		A	知識		
		В	技術・技能		
ける名著である「科学革命の構造」を読み解く	0	С	論理的思考力		
ことで身につける。		D	文章表現力		
		Е	表情及び身体表現力		
		F	感性及び感動表現力		
		G	協働能力		
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
		Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力		
		J	多様性への理解力、応用力		
		K	課題対処力		
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
Paradigm を概念的に理解する			目標 C		
論理的なものの見方で論文が理解できるようになる			目標 C		
			目標		
			目標		

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	科学哲学とは何か?	担当章わけなど	
1	ガイダンス		
	文献 第1章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
2		メと発表により授業を	メを準備、出
2		進める	席者は文献を
			通読のこと
	文献 第2章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
9		メと発表により授業を	メを準備、出
3		進める	席者は文献を
			通読のこと

	文献	第3章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
	2 1,1,7	2	メと発表により授業を	メを準備、出
4			進める	席者は文献を
				通読のこと
	文献	第4章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
	2 4110 1	24 - 1	メと発表により授業を	メを準備、出
5			進める	席者は文献を
				通読のこと
	文献	第5章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
			メと発表により授業を	メを準備、出
6			進める	席者は文献を
				通読のこと
	か献	第6章	担当者のまとめたレジ	
		70 ° T	メと発表により授業を	担当者はレジメを準備、出
7			進める	アを準備、山 席者は文献を
				通読のこと
	か献	第7章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
	×111/	70 1 7	メと発表により授業を	担ヨ有はレン メを準備、出
8			進める	席者は文献を
	女献	第8章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
) \(\int \)	77.0-7	メと発表により授業を	メを準備、出
9			進める	席者は文献を
				通読のこと
	文献	第9章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
			メと発表により授業を	メを準備、出
10			進める	席者は文献を
				通読のこと
	文献	第10章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
			メと発表により授業を	メを準備、出
11			進める	席者は文献を
				通読のこと
	文献	第11章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
			メと発表により授業を	メを準備、出
12			進める	席者は文献を
				通読のこと
	文献	第12章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
13			メと発表により授業を	担ヨ有はレン メを準備、出
1.0			進める	アを単偏、山 席者は文献を

			通読のこと
	文献 第13章	担当者のまとめたレジ	担当者はレジ
1.4		メと発表により授業を 進める	メを準備、出
14		~_ · / · 3	席者は文献を
			通読のこと
15	最終レポートの作成 提出		

レジメ=80点、授業への積極的な参加度=20点。レジメ発表が複数回の時にはその平均点とする。

【教科書】書 名: 科学革命の構造

著者名: トーマス・クーン

発行所: みすず書房 価格: 3024円(税別)

【参考書】書 名:科学の考え方・学び方

著者名:池内了

発行所:岩波ジュニア新書 価格: 907 円(税別)

書 名:歴史としての科学

著者名:村上陽一郎 発行所:筑摩書房

価格: 1300 円(税別)

【その他補足事項】

教科書は、高価なので古本を買うことを勧める。

运業利日夕	授業科目名 臨床心理学研究法特論			授業形態・単位数	講義・2 単位
汉来行日右	端床心连子妍先伝付端		開講年次	1 年次	
	職名:教授	准教授	開講期 准教授 助教		
担当教員	ふりがな			授業回数	15 回
	氏名:杉山雅彦 (まとうゆうき きむらやすひろ 佐藤佑貴 木村泰博		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		選択	
臨床心理士			 事門科目	選択	
公認心理師	専門科目選択		1		
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

大学院においては「研究」をすることが求められます。この研究に関して基本的な構成要因から方法を、具体的に明確にしながら、議論をする中で理解をしていきます。特に、各時間でテーマを立て、それに即して各自調べあるいは検討したものを発表、議論する形で授業は進められます。

	【授業の概要との対応項目】				
\circ	Δ	知識			
	В	技術・技能			
\circ	С	論理的思考力			
	D	文章表現力			
	Е	表情及び身体表現力			
	F	感性及び感動表現力			
	G	協働能力			
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力			
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力			
0	J	多様性への理解力、応用力			
0	K	課題対処力			
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力			

【授業の到達目標】	• ** ***	機要・到達目標との対応 受講して得られる力)
研究を行うことに関して基礎的・専門的知識を有する	目標	A
心理学あるいは臨床心理学の対象に関して多角的、実証的、総合 的に理解できる視点を持つ	目標	C,J
臨床心理学的視点から問題意識を持ち、臨床実践に貢献する研究 を実施する基礎的な力を持つ	目標	С,К

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション(杉山)	オリエンテーション	研究とは何か に関して検討
2	研究とは(杉山)	研究とは何か、および、 研究が成立するための 要因に関して議論	研究とは何か に関して授業 を踏まえて再 検討
3	研究とは (杉山)	研究の質を高め、目標を 達成するための要因に 関して議論	研究に関して必 要なものとは

4	研究を成立させるために(杉山)	研究を成立させるため に何が必要かの議論	先行研究を検 索することの 意味の検討
5	先行研究の意味(杉山)	先行研究を同県等する かの議論	ケース研究の 方法の検討
6	ケース研究の方法論(杉山)	ケース研究に関する発表およびその意味について発表、議論	ケース検討の 方法に関して 授業を踏まえ て再検討
7	ケース研究の方法論(杉山)	ケース研究に関する発表およびその意味について発表、議論	研究における 「比較」に関 して検討
8	「比較」という問題(木村)	データの比較という問 題に関する発表と議論	統計的手法に 関する検討
9	統計的手法(木村)	統計的手法に関する発表および議論	統計的手法に 関して授業を 踏まえた上で 再検討
10	統計的手法(木村)	統計的手法に関する発表および議論	数値に表れない状況の評価 に関して検討
11	臨床場面と数値(佐藤)	数値に表れない状況の 評価に関して発表と議 論	質的研究に関する検討
12	質的研究(佐藤)	質的研究に関する発表と議論	質的研究に関 して授業を踏 まえた上で再 検討
13	質的研究(佐藤)	質的研究に関する発表と議論	質の検討とそ のデイスカッ ションに関し て検討
14	合議と質の問題(佐藤)	合議と質の問題に関す る発表と議論	質的研究のまとめ
15	研究に関するまとめ (杉山)	ケース研究、量的研究、 質的研究に関する議論	研究法に関す るまとめ

授業期間中数回の発表機会を課します。発表内容に関する評価を 70 点満点として評価しますが、特に専門性と視点を重視します。

議論の場面に関してその参加状況と内容に関して30点満点で評価します。

【教科書】使用しません。

授業科目名	心理統計法特論			授美	 ド形態・単位数	講義・2 単位
					開講年次	1年次
	職名:非常勤 担当教員 氏名:和田 裕一 (本務先: 東北大学 職名:准教授)				開講期	後期
担当教員					授業回数	15 回
				期末試験の有無		無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			の必	要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	技	授業科目区分 必修・選択必		修・選択の別	
修了		専門科目		選	択	
臨床心理士	専門科目		選択		択	
公認心理師	専門科目選択					
オフィスアワー・	オフィ	スアワーについ	ハてド	は初回授業時に記	説明します。	

授業の前半では、心理統計学の基本的知識につ いて概説します。後半では、実際の学術論文に みられる統計的手続きやデータ解析、結果の解 釈の妥当性や問題点等に関して議論します。具 体的には、受講者に自らの研究計画やそれに関 連する先行研究の資料やデータを提供しても らい、それを用いて実際に統計解析の実習を取 り入れながら、研究計画やデータ解析に関する 議論を受講者全員で行います。具体的な進め方 については初回授業時に説明します。

	【授業の概要との対応項目】					
0	Α	知識				
0	В	技術・技能				
0	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自 分の言葉で説明できるようになる。	目標	A, C
学術論文で用いられている統計的記述の内容を正しく理解し、データ解析の結果を自分の視点から解釈できるようになることをめざす。	目標	A, B, C
表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。	目標	B, I

	· · · =		
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教	授業時間以外 の必要な学修
	32,20	材等	【予習・復習】
1	イントロダクション	本講義では教科書は使用せず、講義毎に資料を配付する。	各自の研究テーマについ の簡単な紹介 を求めるので 考えておくこ と
2	心理統計学の基礎・尺度水準	パワーポイントと配布 資料に基づく解説	
3	記述統計・代表値	パワーポイントと配布資料 に基づく解説と、表計算ソ フトを用いた実習	前回の確認テス トを行うので復 習しておくこと

4	散布度・標準化	II	11
5	散布図と相関	II	11
6	母集団と標本	II	11
7	正規分布	II.	11
8	統計的仮説検定1	II.	11
9	統計的仮説検定 2	n .	11
10	実験計画と分散分析	実際の学術論文などのデー タを用いた演習形式	11
11	分散分析における交互作用と多重比較	II.	IJ
12	多変量解析 1: 因子分析	n	IJ
13	多変量解析 2: 重回帰分析など	II	IJ
14	ノンパラメトリック検定	II	IJ
15	質的データ分析	n .	11

平常点(50%:授業への積極的な取り組みや質疑等への自発的な応答を評価) 期末レポート(50%:具体的な評価項目、評価基準に関しては授業内で説明します) の成績にもとづいて評価します。詳しくは第1回目に解説します。

【教科書】使用しません。代替教材として講義毎に資料プリントを配付します。

【参考書】書 名: よくわかる心理統計

著者名: 山田剛史・村井潤一郎 発行所: ミネルヴァ書房

価格: 2,800円(税別)

【その他補足事項】

上述の授業内容はあくまで暫定的なものであり、受講人数や受講者の研究領域や関心等に応じて変更する場合があります。本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行います。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付します。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合があります。講義の一部は、表計算ソフト(Excel 等)を用いた実習形式で行うことを予定しています。その際、PC は大学に準備されているものを利用可能であるが、個人所有のノート PC を使用してもよいです。

<u> </u>			-14	_		1 // 1 // 2
运光 到日夕	発達心理学特論		授業形態•単位数	講義・2 単位		
文素付日石 	授業科目名			開講年次	1・2 年次	
職名:非常勤講師					開講期	前期集中
担当教員	^{かみやてつじ} 氏名:神谷哲司			授業回数	15 回	
	(本務先:東北)研究科 職名	学大学院教育学 能教授)		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャン	パス	授業時間以	外の	の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格	・免許	授	業科目区分		必修・選択必修	・選択の別
修了	修了				選択	
臨床心理士		専門科目選択		1		
公認心理師			専門科目選択			
オフィスアワー・メールアドレス等					受業時間の前後に気輸 は佐藤専攻主任まで	

青年期に関する基本的な心理学的知見を振り 返るとともに、青年期を生涯発達の一過程とし て位置づけることで、現代日本における「青年 期」に対する理解を深めます。

	【授業の概要との対応項目】						
0	Α	知識					
	В	技術・技能					
	С	論理的思考力					
	D	文章表現力					
	Е	表情及び身体表現力					
	F	感性及び感動表現力					
	G	協働能力					
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力					
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力					
0	J	多様性への理解力、応用力					
	K	課題対処力					
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力					

【授業の到達目標】		概要・到達目標との 対応項目】 して得られる力)
青年心理学の基礎的な知識を、現代的な青年の問題として位置づける。	目標	A
発達が社会・文化・歴史・時代に埋め込まれていることを理解する。	目標	A
現代日本における青年問題を、現代的な生涯発達の枠組みとして理解する。	目標	J
	目標	

E 42 42 14 F			
		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	オリエンテーション	授業計画	事前に資料に
1	一現代日本の青年の問題とはなにか?	スライド資料等配布	目を通してお
			<
	発達理論における青年期	スライド資料等配布	事前に資料に
2			目を通してお
			<
	青年期の歴史的構造	スライド資料等配布	事前に資料に
3			目を通してお
			<
	青年期の基礎的事項	スライド資料等配布	事前に資料に
4	(1) 身体・生理的機能の変化		目を通してお
			<

	青年期の基礎的事項	スライド資料等配布	事前に資料に
5	(2) 自我とアイデンティティ		目を通してお
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		<
	青年期の基礎的事項	スライド資料等配布	事前に資料に
6	(3) 親子関係と仲間関係		目を通してお
			<
	戦後日本における社会変動と家族の変遷	スライド資料等配布	事前に資料に
7			目を通してお
			<
	家族の変遷とジェンダー,ライフコース	スライド資料等配布	事前に資料に
8			目を通してお
			<
	「青年期の終わり」の構造的問題	スライド資料等配布	事前に資料に
9			目を通してお
			<
	青年問題の変遷とその時代的意味(1)	スライド資料等配布	事前に資料に
10	一1960-70 年代 学生運動 一	動画視聴	目を通してお
			<
	青年問題の変遷とその時代的意味(2)	スライド資料等配布	事前に資料に
11	一1970-80年代 大衆高度消費社会の到来―	動画視聴	目を通してお
			<
	青年問題の変遷とその時代的意味(3)	スライド資料等配布	事前に資料に
12	一1990年代以降 バブル崩壊と格差社会―		目を通してお
			<
	現代青年を取り巻く現状	スライド資料等配布	事前に資料に
13	―キャリアとはいったいなんなのか―		目を通してお
			<
	生涯発達を切り取る視座	スライド資料等配布	事前に資料に
14	―役割理論の再興と可能性―		目を通してお
			<
	まとめと討論	振り返りとディスカッ	講義全体を振
15		ション	り返っておく

- (1) レポート:講義内容について俯瞰的に要点を理解し、相互に関連付け、講義で扱った 現代日本における青年期の特徴についてまとめられているかどうかを評価します (70%)。
- (2) 講義コメント:講義時間の節目ごとに授業内容についての質問、確認、感想をコメントカードに記入してもらい、次の講義時間で活用するとともに評価に用います(30%)。

【教科書】使用しません。

【参考書】書 名:『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談(中学・高等学校編)』

著者名:長谷川啓三·佐藤宏平·花田里欧子(編著)

発行所:遠見書房 価格:2800円(税別)

書 名:『日本の親子』

著者名:柏木惠子·平木典子(編)

発行所:金子書房

価格:2600円(税別)

授業科目名	教育心理学特論			授業形態・単位数	講義・2 単位	
1文未代日石	教育心理子符論 		開講年次	2年次		
職名:兼担教授				開講期	前期	
担当教員	ふりがな	7		授業回数	15 回	
	氏名:梅宮れいか			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		の必要な学修時間	60 時間		
卒業・資	格・免許	授業科目区分 必修・		必修・選択必修	・選択の別	
修了		専門科目		選択	選択	
臨床心理士		専門科目		選択		
オフィスアワー・メールアドレス等			受業時に説明し 前の問い合わせは	ンます。 は佐藤専攻主任まで。		

この授業は、教育場面で現れる諸問題に対応するた めの基礎知識を、人の心理的側面における生涯発達 から理解するものです。効果的な教育手法の考察は 対象としていませんが、教育環境における人の発達 に関して、教育学的なアプローチを含みます。

教科書を持ちますが、レジメ発表の際には、CiNii で関連論文を検索し、その内容を踏まえた発表をし てください。発表を基に知識を広げる授業とします。

		【授業の概要との対応項目】
0	Α	知識
	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	Τ.	人間関係 対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との 対応項目】 (受講して得られる力)		
発達臨床から人と教育とのかかわりを理解する	目標	A	
教育場面での諸問題を心理学的に理解する基礎を養う	目標	A	
人の生涯発達と、直面している問題の関係を心理学的に把握する基礎を養う	目標	С	
多様な発達の諸相について理解する基礎を養う	目標	J	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営につ	福島駅前図書館の情報	初回のみ、宮代
1	いての説明	検索端末を実際に操作	受講生も駅前に
	CiNii のつかいかた	する	集合のこと
	教育心理学と発達臨床	講義	予習:教科書
			の通読
2			復習:教科書
			の理解と疑問
			点の整理

	生涯発達	松利事件,立	→ JU , , , ,
	工任光廷	教科書第1章	予習:レジメ
3		レビュー発表とディス カッション	の作成
) 		<i>/</i>	復習:教科書
			の理解と疑問点の整理
	乳幼児期の発達	 教科書第2章	予習:レジメ
		レビュー発表とディス	の作成
4		カッション	復習:教科書
			の理解と疑問
	水土成内)医内丛板几		点の整理
	発達障害と臨床的援助	教科書第3章	予習:レジメ
5		レビュー発表とディス カッション	の作成
		<i>N</i>	復習:教科書の理解と疑問
			の理解と疑問 点の整理
	児童期・思春期の発達と教育環境	教科書第4,5章	予習:レジメ
		レビュー発表とディス	の作成
6		カッション	復習:教科書
			の理解と疑問
	 思春期の性の発達と LGBT	講義	点の整理 予習:用語の
		^{時我} DVD「僕のバラ色の人生」	理解
7			^垤 復習:ノート
		30 分	の整理
	スクールカウンセラーの機能と援助サービ	数利 書幣 G 音	り登理 予習:レジメ
	スクールガッン Cy V/域化と扱助り C	教科書第6章 レビュー発表とディス	
8		カッション	の作成 復習:教科書
			復省:教科書 の理解と疑問
			点の整理
	青年期の発達	教科書第7章	予習:レジメ
		レビュー発表とディス	の作成
9		カッション	復習:教科書
			の理解と疑問点の整理
	青年期の心理障害と精神病理	 教科書第8章	予習:レジメ
		レビュー発表とディス	の作成
10		カッション	復習:教科書
			の理解と疑問
	大学生の発達と学生相談	41 1 1 = 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	点の整理
	八子生り光建と子生性談	教科書第9章	予習:レジメ
11		レビュー発表とディス カッション	の作成
11			復習:教科書の理解と疑問
			点の整理
i	1	î .	//// / / /

	家族臨床と教育	教科書第11章	予習:レジメ
		レビュー発表とディス	の作成
12		カッション	復習:教科書
			の理解と疑問
			点の整理
	老年期の発達	教科書第12章	予習:レジメ
		レビュー発表とディス	の作成
13		カッション	復習:教科書
			の理解と疑問
			点の整理
	総ディスカッション	ディスカッション	予習:テーマ
			に関する情報
14			の整理
			復習:知識の
			整理
	最終レポートの作成	課題は14 回目に発表す	予習:課題に
15		る	関する情報の
19		個別の質問を含めた、知	収集
		識の確認を含む	

各回のレジメ 5 点満点(計 5 0 点満点)、総ディスカッションの発言内容 2 5 点満点、最終レポート 2 5 点満点とし、総計100 点満点で評価します。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。

【教科書】書 名: 教育心理学〈2〉発達と臨床援助の心理学

著者名:下山晴彦

発行所:東京大学出版会

価格: 3,132 円(税別)

【参考書】書 名:教育心理学キーワード

著者名: 森敏昭·秋田喜代美(編)

発行所:有斐閣双書

価格: 2,052 円(税別)

【その他補足事項】

・教科書の理解と共に、CiNii での論文検索は必ず行ってください。先行研究のレビューがしっかりされているレジメ、発言を高く評価します。

なお、CiNii の検索の仕方は、初回に説明しますので、宮代で受講を予定している学生も駅前に 集合してください。

- ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。
- ・本科目は、平成31年度より公認心理師対応科目となります。

	家族心理学特論			授業形態・単位数	講義・2 単位
授業科目名	(家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)			開講年次	1・2 年次
	職名:准教授			開講期	夏期集中
担当教員	ふりがな わたなべあつこ			授業回数	15 回
	氏名:渡部敦子			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分 必修・選択必		・選択の別	
修了		専門科目		選択	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師	専門科目 必修			<u> </u>	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】		【授業の概要との対応項目】			
本授業では、現代家族の様相について様々な側	0	Α	知識		
面から解説していきます。さらに家族を理解し	0	В	技術・技能		
支援する理論と技法について実践を交えなが		С	論理的思考力		
		D	文章表現力		
ら学んでいきます。		Е	表情及び身体表現力		
		F	感性及び感動表現力		
		G	協働能力		
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
		Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力		
	0	J	多様性への理解力、応用力		
		K	課題対処力		
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
家族とは何かについて説明できる。			目標 A		
家族システム理論について理解できる。			目標 A、J		
家族を支援する理論の基礎を理解する。			月標 A、B、J		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教	授業時間以外 の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	家族とは何か	配布資料	配布資料を読む
1	家族心理学とはどのような学問か	ディスカッション	
	家族の発達	配布資料	配布資料を読む
2		ディスカッション	
	夫婦関係、親子関係、きょうだい関係	配布資料	配布資料を読む
3		ディスカッション	
	父性・母性とは	配布資料	配布資料を読む
4	虐待	ディスカッション	

5	家族をとりまくさまざまな問題	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む レポート作成
6	家族アセスメントの方法	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
7	家族システム論(1) システム論とはどのような考え方か	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
8	家族システム論(2) 事例をもとに考えてみる	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む レポート作成
9	多世代派家族療法	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
10	構造派家族療法	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
11	コミュニケーション派家族療法(1) コミュニケーションについて考える	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
12	コミュニケーション派家族療法(2) 実際の進め方	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
13	短期療法 解決志向アプローチ	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
14	ナラティブセラピー	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
15	まとめ 視点を地域に広げて〜コミュニティアプロ ーチ	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む まとめレポート 作成

授業への参加態度(ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度)40% 小レポート (随時行います) 20% まとめレポート 40%

【教科書】使用しません。

【参考書】書 名:家族療法の秘訣

著者名: 東豊

発行所:日本評論社 価格:2400円(税別)

【その他補足事項】

・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。

拉类利 日 夕	は、日、フンカ	11 (> 1	しっ性診	授業形態・単位数	講義・2 単位
1文条件日名	授業科目名 職場メンタルヘルス特論		開講年次	2 年次	
	職名: 兼担教授			開講期	後期
担当教員 よりがな				授業回数	15 回
	氏名: 茂木 積雄		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			トの必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分 必修・選択必修・選択の		・選択の別	
修了		専門科目		選択	
臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等			は初回授業時 の問い合わせは(に説明します。 佐藤専攻主任まで。	

現在の企業および産業医が最も対応に難渋し、 しかも早急に取り組むべき喫緊の課題である 職場のメンタルヘルスの現状と対策に関する 基本的な理解を深め、臨床心理学の専門職とし ての立場から、他職種とチーム医療を推進する 上で効果的な心理的支援を行うための知識の 習得を目指します。

		【授業の概要との対応項目】
0	A	知識
0	В	技術・技能
0	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	Ι.	人間関係 対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	L *> ->	概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
・種々のストレスがメンタルヘルスに及ぼす影響の基本的事項に 関して、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A, C
・職場のメンタルヘルス対策の重要性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A, C
・医療及び産業保健の現場で、患者と労働者のメンタルヘルス対 策を進める上での課題と問題点についての理解を深める。	目標	А, С, Ј
・ストレスチェック制度が導入された経緯を理解するとともに、 ストレスチェック制度の概要・実施方法・問題点、等に対する 理解を深める。	目標	А, В, С
	目標	

# 42 42 14 FT	• • •		
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教	授業時間以外 の必要な学修
. ,,,,		材等	【予習・復習】
	オリエンテーション	授業計画	
	・授業の概要と目標(授業内容)		
1	・評価方法・授業の進め方の留意点		

	産業保健活動の標準的プロセス	プリント配布:「職場で	結核・インフ
	・リスクアセスメントの目的と方法	問題となる感染症し	ルエンザ・ノ
	・生物学的健康障害要因の把握	「国際である原文に	ロウイルス感
2	工元 ,用,使水平日女凶*/161年		ロワイルへ感 染症の予防と
			異症の予防と 蔓延防止策を
			受延防止泉を 考える。
	(中 △) 海 中 禾 邑 △	プリント町大「女米屋」	
	(安全)衛生委員会	プリント配布「産業医と	職場環境と健康等理の基本
3	・目的と役割	健康管理スタッフの役	康管理の基本
	・安全衛生目標の基本	割」	を理解する。
	・年間目標と評価	575 HIME (2 2 1) S = 21	***
	今職場で起こっていること	DVD 視聴(60分)「長時	現在注目され
4	・ストレスを感じている労働者の増加	間労働と過労死」(映像	ている労働問
		利用)」	題の概要を理
			解する。
	職場におけるストレス	プリント配布「心理的ス	職場における
	・職場環境と心理的ストレス	トレスの種類と発生要	ストレスの概
5	・ストレスの自己管理と健康管理スタッフの	因」	要と緩衝要因
	役割		についての理
			解を深める。
	心理的ストレスと身体反応	DVD 視聴 (30分) 「スト	心理的ストレ
6	・心身症の種類と病態	レスとストレス反応(映	スが身体に及
		像利用)」	ぼす影響を考
			える。
	職場のメンタルヘルス対策(総論)	プリント配布「メンタル	メンタルヘル
	・メンタルヘルス関連のキーワード	ヘルス関連のキーワー	スと関連した
7		ドについて」	キーワードの
			概要を理解す
			る。
	職場でみられる精神疾患 (1)	DVD 視聴 (30 分)「うつ	うつ病の症
	・うつ病	病の治療」(映像利用)	状・特徴・治
8	・新型うつ病(現代型うつ病)		療の基本的事
			項を理解す
			る。
	職場でみられる精神疾患 (2)	プリント配布「アルコー	それぞれの疾
	・適応障害	ル依存症と肝障害」	患の特徴につ
9	・不安障害		いて考える。
	・アルコール依存症		
Li		<u>[</u>	

	職場復帰支援プログラム	プリント配布「職場復帰	患者心理に基
10	・支援の目的、留意点および限界	支援プログラムの事例	づいた支援の
	・健康管理スタッフの役割とラインケア	(仮想)」	たて方を考え
			る。
	過重労働と夜勤労働者の労働管理	プリント配布「交替性勤	過重労働が心
11	・残業時間と過労死の関係	務および夜勤業務が心	身におよぼす
	・交替制勤務および夜勤業務者の健康問題	身の健康に及ぼす影響」	影響について
			理解する。
	ストレスチェック制度(総論)	プリント配布「パワハラ	ストレスチェ
12	・制度導入となった社会的背景の概要	対策と企業の生産性」	ック制度の概
	・ストレスチェック制度の概要		要を理解す
			る。
	ストレスチェック制度の実施(1)	プリント配布「ストレス	ストレスチェ
	・具体的実施方法の概要	チェック制度の流れ」	ック制度を実
13	・面接指導、事後措置、集計と分析		施する上での
			問題点につい
			て考える」
	ストレスチェック制度の実施(2)	プリント配布「職業性ス	職業性ストレ
14	・実施項目の概要	トレス簡易調査票」	ス簡易調査票
14	・ストレスチェックの実習		の概要を理解
			する。
	まとめ	スライド (パワーポイン	既習内容のポ
15		ト)「職場のメンタルへ	イントを再確
		ルス対策」	認する。

- (1) レポート: レポートは70点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とします。
- (2) その他:授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施する(30 点満点)。 採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。

【教科書】使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

①書 名:職場のメンタルヘルス対策最前線

著者名:中村 純 発行所:昭和堂

価格:1700円(税別)

②書 名:心が折れる職場

著者名: 見波利幸

発行所:日本経済新聞出版社

価格:850円(税別)

③書 名:学校・職場のメンタルヘルスの実践と応用

著者名:牧野真理子

発行所:新興医学出版社 価格:2700円(税別)

【その他補足事項】

・授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。

・本科目は、平成31年度より公認心理師対応科目となります。

	発達障害児心理学特論		授業形態•単位数	講義・2 単位	
授業科目名	(福祉分野に関する理論と支援の展開)		開講年次	1年次	
	職名:兼担教授		開講期	前期	
担当教員				授業回数	15 回
			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業	授業科目区分 必修・選択必修・選抜		・選択の別
修了	専	門科目	選択		
臨床心理士	専門科目選択		1		
公認心理師	専門科目 必修		Ş		
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。			

発達障害について、その概念、診断、原因、援助原理について学びます。履修者がテーマを分担し、関係文献・著書に基づいてレジュメを作成して発表し合うことを中心に授業を展開します。

【授業の概要との対応項目】		
0	Α	知識
	В	技術・技能
	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	• -> ->	概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
・発達障害児の概念、診断、原因について知る。	目標	A, J
・発達障害児に対する援助原理を知る。	目標	A, J
・発達障害児の家族に対する援助の考え方と援助的関わりについて知る。	目標	A, J
・発達障害の支援に関する公認心理師の役割について知る。	目標	A, J

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	・授業説明・テーマ分担	シラバス使用 「テーマ分担表」	
2	・知的障害1:概念、行動特徴	講義(レジュメ使用)	レジュメに基 づく、予習と 復習
3	・知的障害 2 : 原因	11	"

4	・知的障害3:援助原理	n	11
5	・自閉症スペクトラム1:用語と概念、行動特徴	発表 (レジュメ使用) 質疑応答	テーマに関す る予習、復習、 発表準備
6	・自閉症スペクトラム 2:原因	II	<i>II</i>
7	・自閉症スペクトラム3:査定、診断	II	II
8	・自閉症スペクトラム4:援助原理	II	II.
9	・注意欠陥多動性障害 1:概念、診断	II	II
10	・注意欠陥多動性障害 2:原因・病理	II	II.
11	·注意欠陥多動性障害 3:援助原理	II	II.
12	・学習障害:原因・病理	II	II.
13	・保護者への援助	II	II.
14	・発表や質疑の補充1 公認心理師の役割	ディスカッション	テーマに関す る予習、復習
15	・発表や質疑の補充2 公認心理師の役割	II	II.

- ・担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確性により評価します。
- ・遅刻・早退1回につき1点の減点、欠席1回につき3点の減点します。

【教科書】使用しません。

【参考書】必要に応じて、文献・書籍を紹介、提供します。

【その他補足事項】

・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。

运光 利日夕	発達障害児心理学演習			授業形態・単位数	演習・2 単位
授耒村日石 	授業科目名 光達障害児心埋字演習		王子供白	開講年次	1年次
職名:兼担教授				開講期	後期
担当教員	ふりがな いたがきけんたろ	3 j		授業回数	15 回
	氏名:板垣健太			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格	各・免許	授業科目区分		必修・選択必修	・選択の別
修了		専門科目		選択	
臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。			

発達障害児の個別療育的セラピー、保護者や兄 弟姉妹への援助、他機関との連携の実際につい て学びます。履修者でテーマを分担し、関係文 献・著書を調べ、レジュメを作成して発表し合 う形式で進めます。授業内容は基本的には「授 業内容」のとおりですが、履修者の臨床に関す る知識や経験に応じて、より必要なものに変更 していく予定です。

		【授業の概要との対応項目】
0	Α	知識
	В	技術・技能
	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	• *> -> 1 4	概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
・発達障害の療育的関わりの考え方や実際の方法について理解する。	目標	A, J
・発達障害児を持つ家族への援助の考え方や実際について理解する。	目標	A, J
・他機関との連携についての考え方や実際について知る。	目標	A, J

1 1 V V V P	· — 4		
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	授業説明、テーマの分担		
2	心理臨床相談センターの施設・設備・業務	説明と見学研修	
3	療育的セラピーの考え方	講義(レジュメ使用)	テーマに即し た予習と復習
4	療育的セラピーの進め方	II	IJ.

5	療育的セラピーの計画とプログラム、記録	II	II
6	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー1 ~目的	発表と質疑応答	″、発表準備
7	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー2 ~心理診断、	II	II.
8	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー3 ~内容	II	IJ.
9	注意欠陥多動性障害の療育的セラピー	II	II
10	「問題行動」の捉え方と対処法	II	JJ
11	心理職と保育職の連携	発表とディスカッショ ン	IJ
12	心理職と他機関の連携	II	IJ.
13	保護者援助	II	IJ
14	対象でない子ども(兄弟姉妹)への配慮・ ケア	II	II
15	補充ディスカッション	ディスカション	II.

- ・担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確さにより評価します。
- ・遅刻・早退1回につき1点、欠席1回につき3点減点します。

【教科書】使用しません。

【参考書】必要に応じて、文献・書籍を紹介、提供します。

【その他補足事項】

- ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。
- ・本科目は平成29年度以前入学生対象の科目です。

	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		授業形態•単位数	講義・2 単位	
授業科目名			開講年次	1・2 年次	
	職名: 教授		開講期	前期集中	
担当教員	ふりがな ほしのよしひこ			授業回数	15 回
	氏名: 星野仁彦	:		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修	・選択の別
修了		専門科目選択		1	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師	専門科目 必修		Ç		
オフィスアワー・	※事前の		に説明します。 は研究室(駅前キャン/	パス E301)へ	

各種の精神障害―特に発達障害、不安障害(神経症)、うつ病、気分障害、認知症、嗜癖行動、 人格障害、統合失調症などの臨床症状、病態と 原因、医学的治療法、心理療法、家庭療法、行動療法、リハビリテーションなどについて基礎 的、臨床的知識を深めます。

		【授業の概要との対応項目】
0	Α	知識
	В	技術・技能
	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
精神医学の基礎的、臨床的知識を身につける。	目標	A
病理にあわせた支援法について知る。	目標	Α
病理についてのイメージを深める。	目標	A, I
保健医療分野における公認心理師の役割と実践について知る。	目標	A

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	発達障害―特に自閉症スペクトラム障害について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料(レジュメ)	下欄に示す各 種ビデオ(星 野研究室)に 目を通してお くこと

	発達障害	資料(レジュメ)	ビデオ「心の
	先達障害 一特に注意欠陥/多動性障害と学習障害について	泉州(ビマ <i>ユグ)</i> 	トラブルVol.3
	1916年紀八四岁期は早音と子自桿音にブリ・し		トノノル Vol.3 一注意欠陥/多
2			動性障害
			リック は、原 音 (ADHD)」
	水净体中	次型(エジー)	(30分)
	発達障害	資料(レジュメ)	発達障害につ
	―特にアスペルガー障害と高機能自閉症について		いて事後学習
3			を行い、状態
			像・対応等に
			ついて理解を
	~ d=1%d=	7/10 1/2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	深めること
	不安障害	資料(レジュメ)	ビデオ「心の
	一特にパニック障害、社会不安障害、		トラブルVol.8
	強迫性障害について		一強迫性障
4	本障害における公認心理師の役割と実践		害」(30分)
			ビデオ「心の
			トラブル Vol.9
			ーパニック障
		Wester A 2	害」(30分)
5	不安障害	資料(レジュメ)	
	一特にPTSD、離人症、解離性障害について	Virginia (> - S -)	
	うつ病・(気分障害)、双極性障害 その①	資料(レジュメ)	ビデオ「心の
6	本障害における公認心理師の役割と実践		トラブルVol.6
6			トラブルVol.6 -気分障害」
6	本障害における公認心理師の役割と実践		トラブルVol.6 -気分障害」 (30分)
6		資料(レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の
7	本障害における公認心理師の役割と実践		トラブルVol.6 -気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4
	本障害における公認心理師の役割と実践		トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一 双 極 性 障
	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その②	資料(レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一 双 極 性 障 害」 (30分)
	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症		トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一 双 極 性 障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ
	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について	資料(レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル
7	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症	資料(レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル ツハイマー型認知
7	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について	資料(レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル
7 8	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について	資料(レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル ツハイマー型認知
7	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料 (レジュメ) 資料 (レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル ツハイマー型認知
7 8	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料 (レジュメ) 資料 (レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル ツハイマー型認知
7 8	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について 本障害における公認心理師の役割と実践 認知症―その他	資料 (レジュメ)資料 (レジュメ)資料 (レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル ツハイマー型認知
7 8 9	本障害における公認心理師の役割と実践 うつ病・(気分障害)、双極性障害 その② 認知症 一特に脳血管性とアルツハイマー型について 本障害における公認心理師の役割と実践 認知症―その他 依存症と嗜癖行動	資料 (レジュメ)資料 (レジュメ)資料 (レジュメ)	トラブルVol.6 一気分障害」 (30分) ビデオ「心の トラブルVol.4 一双極性障 害」 (30分) ビデオ「心のトラ ブルVol.1-アル ツハイマー型認知

	依存症と嗜癖行動	資料(レジュメ)	ビデオ「心の
11	一特にギャンブル、浪費、恋愛、過食、自傷		トラブルVol.7
11	行為について		- 摂食障害」
			(30分)
	パーソナリティ障害	資料(レジュメ)	ビデオ「心のト
12	―特に境界性、自己愛性、反社会性について		ラブルVol.2-
12	本障害における公認心理師の役割と実践		反社会性人格障
			害」(30分)
1.0	パーソナリティ障害	資料(レジュメ)	
13	―特に回避性、依存性、強迫性について		
	統合失調症	資料(レジュメ)	ビデオ「心の
	―その臨床症状と病態		トラブル
14	本障害における公認心理師の役割と実践		Vol.12 — 統 合
14			失調症(精神
			分裂病)」(30
			分)
15	統合失調症	資料(レジュメ)	
19	―その医学的治療とリハビリテーション		

授業態度(意欲·積極性) 40%

毎回の授業内レポート(授業内容の理解度)60%により判断します。

【教科書】使用しません。プリントを配布します。

【参考書】書 名:改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学

著者名:小阪憲司他(編)

発行所: へるす出版

価格:2,940円(税別)

書 名:改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学

著者名:谷野亮爾他(編)

発行所:へるす出版

価格:3,150円(税別)

【その他補足事項】

・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。

極紫紅 日 夕	精神薬理学特論			授業形態・単位数	講義・2 単位
授業科目名	作作来	垤于	竹丽	開講年次	2 年次
	職名: 兼担教授			開講期	前期
担当教員	ふりがな			授業回数	15 回
	氏名: 茂木 積			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			トの必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業	授業科目区分 必修		・選択の別
修了				選択	
臨床心理士				選択	
_					
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。			

医療、介護、保健、福祉および産業衛生などの 現場でしばしば遭遇する精神神経疾患の特徴 と薬物療法の実際についての理解と知識を深 めることにより、臨床心理学の専門職としての 専門性を発揮し、多職種と連携してチーム医療 の一翼をになうための基礎的素養を醸成しま す。

		【授業の概要との対応項目】
0	Α	知識
	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
0	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	Τ.	人間関係 対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	• -> ->	概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
・代表的な精神神経疾患の種類と特徴などを自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A, C
・精神神経疾患における薬物療法の目的、重要性および意義など について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A, C
・他職種とのチーム医療を効果的に推進するために必須となる、 主な精神神経疾患の概要と薬物療法の基礎的事項についての理 解を深める。	目標	A, C, G
	日標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
	オリエンテーション	授業計画	受容体を介し
1	・授業の概要と目標 (授業内容)	プリント配布「薬と受容	て薬が作用す
1	・評価方法、授業の進め方の留意点	体」	る仕組みを理
	・薬が作用する仕組み		解する。
2	自律神経系と関連した薬と主な疾患	DVD 視聴 (20 分)「自律	自律神経の働
2	・交感神経と副交感神経	神経失調症」(映像利用)	きと関連する

	・自律神経作動薬と遮断薬		薬の概要を理
			解する。
	心身症(1)	DVD 視聴 (20 分)「心身	心身症の定義
3	・心身症と関連した疾患	症の最近の考え方」(映	と概要を理解
	・生活習慣病	像利用)	する。
	心身症(2)	プリント配布	心身症に含ま
4	・過敏性腸症候群		れる消化器疾
$\frac{4}{}$	・機能性ディスペプシア		患について考
			える。
	心身症(3)	プリント	アレルギー疾
5	・気管支喘息		患の概要と治
	・アトピ―性皮膚炎		療薬について
			理解する。
	ストレス関連疾患	プリント配布	頭痛の種類・
	・片頭痛		症状・治療薬
6	・円形脱毛症		の作用機序に
			ついて理解す
			る。
	アルコール依存症	プリント配布「アルコー	アルコールが
7	・アルコール依存症の病因と疫学	ル性肝障害の終末像」	心身に及ぼす
7	・アルコール依存症の治療		影響について
	・アルコール性肝障害		理解する。
	睡眠障害	DVD 視聴 (30 分)「睡眠	睡眠薬の種類
8	・睡眠障害の種類と特徴	障害の治療法」(映像利	と特徴を理解
	・睡眠薬の薬理作用	用)	する。
	・睡眠薬の副作用		
	抗うつ薬	DVD 視聴 (30 分)「うつ	うつ病の分類
9	・分類・薬理作用・副作用	病の薬物治療」(映像利	と薬物療法の
	・うつ病の種類と特徴	用)	概要を理解す
			る。
	統合失調症と躁うつ病	DVD 視聴 (30 分)「統合	統合失調症と
10	・疾患の概念、疫学、症状	失調症」(映像利用) 	躁うつ病の治
	・治療導入		療薬の基礎を
	・薬物療法と心理社会的治療		理解する。
	パニック障害・強迫性傷害・適応障害	プリント配布「過換気症	各々の疾患の
11	・疾患の概念	候群をきたした事例(仮	特徴と治療法
	・薬物治療	想)の紹介」 	について考え
	・過換気症状と血液ガス検査		る。

	認知症	DVD 視聴 (30 分)「認知	認知症の種類
10	・疾患の概念、疫学、症状、病態	症の予防と最新の治療」	と治療法の概
12	・薬物治療と心理社会的治療	(映像利用)	要を理解す
	・生活習慣病との関連		る。
	てんかんとパーキンソン病	DVD 視聴 (30 分)「パー	両疾患の特徴
1.0	・疾患と概念	キンソン病の病態と薬	と治療薬の基
13	・薬物治療	物療法」(映像利用)	礎を理解す
	・てんかん発作時の薬物療法		る。
	高齢者の薬物治療	DVD 視聴 (30 分)「急増	高齢者におけ
1.4	・老年期の患者の薬物動態と副作用	する無認可介護保険関	る薬物療法の
14	・せん妄への対応、向精神病薬の副作用	連施設」(映像利用)	注意点を理解
	・睡眠障害の治療薬と副作用		する。
	まとめ	振り返り資料	既習内容のポ
15			イントを再確
			認

- (1) レポート: レポートは70点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とします。
- (2) その他:授業内容の理解度を確認するために小テストを実施する(合計 30 点満点)。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。

【教科書】使用しません。プリントを配布します。

【参考書】書 名: イラストでまなぶ薬理学

著者名: 田中越朗 発行所: 医学書院

価格: 2600円 (税別)

【その他補足事項】

- ・授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。
- ・本科目は平成 29 年度以前入学生対象の授業です。

<u>心理学研究科臨床心理専攻</u> 授業計画

平成30年度

		•••			1 777
授業科目名	グループ・アプローチ特			授業形態•単位数	講義・2 単位
授耒村日石 		グルーノ・ノノローフ行論			2 年次
	職名:教授			開講期	後期集中
担当教員	_ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			授業回数	15 回
				期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外の		の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格	各・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了				選护	
臨床心理士		選択		7	
オフィスアワー・メールアドレス等			くは初回授業時	に説明します。	

【授業の概要】			【授業の概要との対応項目】
	0	A	知識
集団の中で成長していく人間の姿を、従来の研		В	技術・技能
究を通じて理解・検討し、さらにその実践をし		С	論理的思考力
ていきます。		D	文章表現力
		Е	表情及び身体表現力
	0	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	0	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】		概要・到達目標との 対応項目】 して得られる力)
グループ・アプローチの理論について知る。	目標	A
他者との関係及びグループの中で、次第に姿を現す自己、及び他者の 姿に気づき、 相互の関係の在り方を理解できるようになる。		A,F,I,J
	目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	グループ・アプローチの理論 1	随時グループによる話 し合いをし、全体での討 論を行う	レジュメ・文 献による理論 研究
2	グループ・アプローチの理論 2	随時グループによる話 し合いをし、全体での討 論を行う	レジュメ・文 献による理論 研究
3	グループ・アプローチの種類 1	随時グループによる話 し合いをし、全体での討 論を行う	レジュメ・文 献による理論 研究

_	I .a	[m	S
	グループ・アプローチの種類1	随時グループによる話	レジュメ・文
4		し合いをし、全体での討	献による理論
		論を行う	研究
	ここまでのまとめとフィードバック	随時グループによる話	レジュメ・文
5		し合いをし、全体での討	献による理論
		論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
6	芸術療法の技法を使ったグループワーク1	し合いをし、全体での討	献による理論
	Anma Mack Territory	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
7	 芸術療法の技法を使ったグループワーク 2	し合いをし、全体での討	献による理論
	ZIII/// ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
8	 芸術療法の技法を使ったグループワーク3	し合いをし、全体での討	献による理論
	五州原因の民国を使うだうパーララーラも	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
9	 芸術療法の技法を使ったグループワーク4	し合いをし、全体での討	献による理論
	五州原因の民国を使うだうパーララーラコー	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
10	 芸術療法の技法を使ったグループワーク 5	し合いをし、全体での討	献による理論
	ZIII/// ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
11	 芸術療法の技法を使ったグループワーク 6	し合いをし、全体での討	献による理論
	Z MI MI LO DE LE	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
12	 対話を通じてのグループワーク 1	し合いをし、全体での討	献による理論
	内間で通じて [*] ング/t・・・ファープ T	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
13	 対話を通じてのグループワーク 2	し合いをし、全体での討	献による理論
	And Cotton John John John John John John John Jo	論を行う	研究
	グループワークの実践	随時グループによる話	レジュメ・文
14	対話を通じてのグループワーク3	し合いをし、全体での討	献による理論
		論を行う	研究
		随時グループによる話	レジュメ・文
1.5	まとめと全体を通じてのフィードバック	, = .	献による理論
15		し合いをし、全体での討	研究
		論を行う	

毎回のフィードバック (50%) と最終レポート (50%) によって評価します。

【教科書】使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。

【その他補足事項】

・本科目は平成29年度以前入学生対象の授業です。

心理学研究科臨床心理専攻 授業計画

平成30年度

		汉	* "	-	1 残 00 干及
授業科目名	心理療法特論			授業形態•単位数	講義・2 単位
文素付日名 		京 (左	行訊	開講年次	1・2 年次
	職名:非常勤講	師		開講期	前期集中
担当教員	氏名:渡部純夫	*************************************		授業回数	15 回
	(本務先:東北福 福祉心理:		学総合福祉学部 職名:教授)	期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャン	福島駅前キャンパス 授業時間以外の		の必要な学修時間	60 時間
卒業・資格	・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		選択	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		集中講義ですので、授業時間の前後お声がけください ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。		がけください。	

【授業の概要】

心理療法の一つである「箱庭療法」について、 基本を学び、作品制作を通して「箱庭療法」の 理論と、その活用の仕方・可能性・限界・留意 点などについて、身につけていきます。

	【授業の概要との対応項目】					
0	Α	知識				
	В	技術・技能				
	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
0	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
0	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
0	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】		概要・到達目標との 対応項目】 レて得られる力)
箱庭療法理論が理解でき、説明が出来るようにする。	目標	A
実際に箱庭に触れることで、箱庭療法の統合性や空間配置の意味など		A TOLL
について、理論的根拠に基づく説明が出来るようにする。		A,F,I,J
	目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
	心理療法における箱庭療法の位置づけ		授業内容につ
1			いて考えをま
			とめる
	箱庭療法の技法について	教科書(pp.3-13)	授業内容につ
2			いて考えをま
			とめる

3	箱庭療法の理論的背景1	教科書(pp.14-30)	授業内容について考えをま
			とめる
	箱庭療法の理論的背景2	教科書(pp.14-30)	授業内容につ
4			いて考えをま
	At the table to a runal that the	#/.T\ == (1 4 00)	とめる
	箱庭療法の理論的背景3	教科書(pp.14-30)	授業内容につ
5			いて考えをま
			とめる
	作品制作と見方の検討1	制作と全体討議	作品について
6			考えをまとめ る
	作品制作と見方の検討2	 制作と全体討議	作品について
7	作品制作と見力の検討を	制作と生体討議	考えをまとめ
			る
	作品制作と見方の検討3	制作と全体討議	作品について
8			考えをまとめし
	 作品制作と見方の検討4	 制作と全体討議	作品について
9		11111日 土 件 11 00	考えをまとめ
			る
10	作品制作と見方の検討5	制作と全体討議	作品について
10			考えをまとめし
	 作品制作と見方の検討6	制作と全体討議	作品について
11	11 8818711 C 2823 15 [K 8 1 6	11111 C 1211 # 1 # 100	考えをまとめ
			る
	作品制作と見方の検討7	制作と全体討議	作品について
12			考えをまとめ
			る
	事例を通して物語としての箱庭を読む1	全体討議	物語について
13			考えをまとめ
			る
	事例を通して物語としての箱庭を読む2	全体討議	物語について
1.4		T-1.1 H 1 HX	考えをまとめ
14			
	414		3
	まとめ		授業で学んだ
15			ことを整理す
			る
	•	•	•

授業参加態度 (意欲・発言・主体性) 50%

発言の内容(的確な理解・ポイントの押さえ方)50%

【教科書】書 名:箱庭療法入門

著者名:河合隼雄編 発行所:誠信書房

価格:2,000円(税別)

書 名:こころのケアの基本

著者名:小俣和義編著

発行所: 北樹出版

価格:2,300円(税別)

【参考書】書 名:現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学

著者名:小松 紘・木村 進編

発行所: 八千代出版 価格: 3,000 円+税

			田性公	授業形態・単位数	講義・2 単位	
授業科目名	臨床心理地域援助特論		開講年次	2年		
	職名:非常勤講師 ^{よりがな} 担当教員 氏名:須田誠			開講期	後期集中	
担当教員				授業回数	15 回	
		大学こども心理学部 職名:准教授)		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		外の必要な学修時間	60 時間		
卒業・資	格・免許	授業科目区分 必修・過		必修・選択必修	選択必修・選択の別	
修了		Ę	専門科目選択		1	
臨床心理士		専門科目		選択		
オフィスアワー・メールアドレス等		初回	受業時に説明	します。		

【授業の概要】
本講義では、とりあげる心理療法の学派における基本的な考え方と、心理療法での対話の基盤にあるセラピストの基本的なスタンスを理解することを目標とします。そのために、心理療法における具体的介入を取り上げ、どのような認識論から、どのような意図と技法をもってその実践を行っているのかを検討します。あわせて、クライエントの語りを大切にしつつ、クライエントが属するシステム、コミュニティ、社会文化をも視野に入れることを学びます。エクササイズの体験をもとに、促進的な態度・スキルを身につけ、自分のものの見方や拠って立つ理論を自覚して照らし合わせます。

	【授業の概要との対応項目】					
0	Α	知識				
	В	技術・技能				
	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
0	J	多様性への理解力、応用力				
0	K	課題対処力				
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
心理臨床におけるコミュニティ・アプローチを理解する。	目標	A
コミュニティ心理学の鍵概念(コンサルテーション等)を理解する。	目標	A
コミュニティ・アプローチの発想で心理臨床の事例を読み解く。	目標	A,J,K
講義・発表・討議において、他者の言葉を丁寧に聴き取る。	目標	J
発表において、説得力を持って簡潔に専門的内容を伝える。	目標	I
討議において、積極的な参加・関与の態度を取る。	目標	I,J

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	本科目全体の説明および講義:コミュニティ・ア プローチとは?	授業の進め方についての 導入	シラバスを熟読の 上、疑問があれば
1			初回時に確認をす
			るこに確認すること

	環境に影響を受ける人間の心理と行動	テーマに関するディス	第1回で配布し
2			た資料を読み
		カッション	込むこと
	講義と討議:事例「対人不安」の解説	テーマに関するディス	第2回で配布し
3		カッション	た資料を読み
	3# 24) 3 [24 + 12] 4 40 3 D		込むこと
4	講義と討議:事例「自殺予防」の解説	テーマに関するディス	第3回で配布した資料を読み
4		カッション	た質科を読み 込むこと
	 講義と討議:事例「発達障害」の解説	テーマに関するディス	第4回で配布し
5			た資料を読み
		カッション	込むこと
	講義と討議:事例「喪の作業」の解説	テーマに関するディス	第5回で配布し
6		カッション	た資料を読み
	 講義と討議:事例「虐待」の解説	-)- HP L フ ヴ . ユ	込むこと 第 6 回で配布
7		テーマに関するディス	した資料を読
•		カッション	み込むこと
	講義と討議:事例「非行」の解説	テーマに関するディス	第7回で配布し
8		カッション	た資料を読み
			込むこと
9	発表と討議(1):受講生による事例論文の報告	テーマに関するディス	事例論文を読み込むこと
	と討議	カッション	07.25 C.C
	発表と討議(2):受講生による事例論文の報告	テーマに関するディス	事例論文を読
10	と討議	カッション	み込むこと
	発表と討議(3):受講生による事例論文の報告	テーマに関するディス	 事例論文を読
11			み込むこと
	と討議	カッション	
12	発表と討議(4):受講生による事例論文の報告	テーマに関するディス	事例論文を読
14	と討議	カッション	み込むこと
	発表と討議(5):受講生による事例論文の報告	テーマに関するディス	事例論文を読
13	と討議	カッション	み込むこと
			事例論文を読
14	発表と討議(6):受講生による事例論文の報告	テーマに関するディス	事例論又を説 み込むこと
	と討議	カッション	
	講義と討議:コミュニティ心理学における倫理、	テーマに関するディス	第15回で配布
15	まとめ	カッション	した資料を読
		-	み込むこと
1			○ / KM - C

受講態度(討議への貢献度や適格さや積極性等)30% プレゼンテーション(発表資料の内容や工夫等)30% 課題(レポート等)40%

成績評価基準:

- (1) コミュニティ心理学における鍵概念 (キーワード; コンサルテーションや連携や危機介入等) を理解できているかどうかを重視します。
- (2) 心理臨床の事例をコミュニティ・アプローチの発想で捉えることができているかどうかを重視します。
- (3) 発表や討議に際して、他者の話を丁寧に聴き、かつ、他者に説得力を持って簡潔に専門的内容を伝えるというコミュニケーション・スキルを重視します。

【教科書】特に指定しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】書 名:コミュニティ心理学 地域臨床の理論と実践

著者名:山本和郎

発行所:東京大学出版会 価格:3,000円+税

書 名:危機介入とコンサルテーション

著者名:山本和郎

発行所:ミネルヴァ書房

価格:2,500円+税

書 名:コミュニティ・アプローチ

著者名:高畠克子

発行所:東京大学出版会

価格:2,800円+税

書 名:よくわかるコミュニティ心理学

著者名:植村勝彦・高畠克子他

発行所:ミネルヴァ書房

価格:2,500円+税

その他、適宜紹介する。

【その他補足事項】

- (1) 第 1 回から第 8 回までが講義が中心、第 9 回から第 14 回が受講生による報告が中心である。報告は、個人ないしグループによるテキスト担当箇所および心理臨床の事例研究論文を「コミュニティ・アプローチ」の発想で読み解き、発表することとする。受講者数に応じて個人報告とするかグループ報告とするかを決定する。尚、討議は全回を通して行う。
- (2)事例を多く取り上げる。当事者および関係者から公表の許可を得ているものだが、受講生は講義時間外で他言しない等の守秘義務を負うこと。
- (3)映像資料を取り上げることもあるが、映像資料は情報量が多いため、少しでも見逃すと展開が読めなくなる。そのため、体調管理を万全にし、明瞭な意識で講義に臨むこと。

	<u> </u>						
授業科目名 学校臨床心		心理学供验		授業形態・単位数	講義・2 単位		
1文条件日名	学校臨床心理学特論		一行冊	開講年次	2 年次		
	職名:教授		開講期	前期			
担当教員	ふりがな			授業回数	15 回		
	氏名:杉山雅彦			期末試験の有無	無		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		トの必要な学修時間	60 時間			
卒業・資	格・免許	授美	授業科目区分 必修・選択必修・		・選択の別		
修了		専門科目 選抜		1			
臨床心理士		専門科目		選択	選択		
公認心理師		専門科目選択		1			
オフィスアワー・	オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。			

【授業の概要との対応項目】 【授業の概要】 A 知識 学校という複雑な状況の中で、何が起こってい 技術・技能 В るのかあるいは心理学的には何が起こってい C 論理的思考力 ると考えられるかに関して検討し、そういった D 文章表現力 状況に関してどのような関係、相互作用が成立 E 表情及び身体表現力 し、機能するかに関して理解していきます。そ F 感性及び感動表現力 の上でケーススタディを行い、様々な状況ある G 協働能力 いは問題に関して臨床心理学がどのような貢 まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 Η 献をすることが出来るかを検討します。 Ⅰ | 積極的発言力及びプレゼンテーション力 J 多様性への理解力、応用力 K 課題対処力 L 人間関係、対人関係構築力及び対話力 【授業の概要・到達目標との対応 【授業の到達目標】 項目】(受講して得られる力) 学校に関して臨床心理学的に基礎的、専門的な知識を習得する 目標 A,B 目標 学校を多角的、実証的、総合的に理解する視点を持つ C,J学校という状況に基づいて見立て及び介入するための基本的な力 目標 B,Kを養う 目標

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション	オリエンテーション	学校という状 況に関する検 討
2	学校という状況の分析	資料配付と講義、および 学校という状況の特徴 に関する議論	内容の見直し 教師に関する 検討
3	教師の機能	資料配付と講義、および 学校という状況の特徴 に関する議論	内容の見直し 幼児、児童期 の検討

		資料配付と講義、および	内容の見直し
4	 幼児期と小学校	学校という状況の特徴	中学校の特徴
1		に関する議論	の検討
		資料配付と講義、および	内容の見直し
5	中学校	学校という状況の特徴	高校の特徴の
		に関する議論	検討
		資料配付と講義、および	内容の見直し
6	高校	学校という状況の特徴	集団に関する
		に関する議論	検討
		資料配付と講義、および	内容の見直し
7	集団と行動の分析	学校という状況の特徴	不登校の検討
		に関する議論	
		資料配付と講義、および	内容の見直し
8	不登校	学校という状況の特徴	ケースの検討
		に関する議論	
		ケース検討、議論	ケースの見直
9	不登校ケーススタディ		L
			いじめの検討
		次半再141、建羊 よっトッド	内容の見直し
10	いじめ	資料配付と講義、および	内谷の見直し ケースの検討
10	V · C 0)	学校という状況の特徴 に関する議論	ク ハッハ火町
		ケース討論、議論	ケースの見直
	 いじめケーススタディ		
11			学級崩壊の検
11			討、ケース検
			討
		ケース討論、議論	ケースの見直
10	学級崩壊		L
12			不良行為に関
			する検討
		資料配付と講義、および	内容の見直
13	不良行為、粗暴行為	学校という状況の特徴	し、ケースの
		に関する議論	検討
		ケース討論、議論	ケースの見直
14	不良行為ケーススタディ		L
		<u>>> 15 >= 3 + 56</u>	
	学校しいる性知のましょ	学校という状況の特徴	授業の見直し
15	学校という状況のまとめ	と子どもに与える影響	
		の議論	

授業期間中に、学校という状況に関するレポートを課します。学校という状況の理解、臨床的な介入に関する分析という観点から評価します。このレポートの評価を60%とします。討論、議論への参加に関して、積極性、論理性、を主として評価します。この評価を40%とします。

【教科書】使用しません。

	臨床心理	杏定	海羽 I	授業形態・単位数	演習・2単位		
授業科目名				に関する理論と実践の意義) 開講年次		開講年次	1年次
	職名:助教			開講期	前期		
担当教員	担当教員 よりがな		授業回数	15 回			
	氏名:木村 泰博	泰博		期末試験の有無	無		
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間	60 時間		
卒業・資	格・免許	授美	業科目区分	必修・選択必修・選択の別			
修了		Ī	専門科目	必修			
臨床心理士	専門科目		必修				
公認心理師	専門科目		必修				
オフィスアワー・メールアドレス等オフィスアワーにつ		oいては初回授業時に	説明します。				

•						
【授業の概要】			【授業の	概要との	対応項目】	
①公認心理師の実践における心理的アセスメ	0	Α	知識			
	0	В	技術・技能	技術・技能論理的思考力		
ントの意義	0	С	論理的思考			
②心理的アセスメントに関する理論と方法		D	文章表現力	J		
③心理に関する相談、助言、指導等への上記①		Е	表情及び身	体表現力	J	
及び②の応用		F	感性及び感	動表現力	J	
		G	協働能力			
		Н	まごころ、/	思いやりの		
		I	·		プレゼンテーション力	
		J	多様性への			
		K				
		L	人間関係、	対人関係	構築力及び対話力	
				【授業の	の概要・到達目標との対応	
【授業の到達目標】				項目】((受講して得られる力)	
心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族	の状	況等)及びそ	→ Last		
の把握の手法等について概説できる。				目標	A, B, C	
心理に関する支援を要する者等に対して、関与	しなれ	ぶら	の観察に			
ついて、その内容を概説することができ、行う				目標	A, B, C	
1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1				月標		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標 評価方法・授業の進め方の留意点 公認心理師の実践における心理的アセスメ ントの意義	授業計画補足資料	
2	心理的アセスメントに関する理論と方法 心理的アセスメントの実践	補足資料	事前に補足資料を読む

3	第1章精神科臨床の現場より	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
4	第2章標準化という大きな課題	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
5	第3章心理アセスメントとは?	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
6	第4章関係の上に成立しているアセスメン ト	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
7	第5章精神分析とクライエント中心療法	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
8	第6章診断(見立て)と要約	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
9	第7章トリアージ1	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
10	第8章トリアージ2	発表、ディスカッション	担当箇所をま とめてくる
11	第9章病態水準	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
12	第 10 章疾患にまつわる要素	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
13	第 11 章パーソナリティと発達	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
14	第 12 章生活の実際と第七の視点	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
15	レポートを書く技術	発表、ディスカッション	

- ①発表 60% 担当回の発表の内容や質
- ②演習の取り組み 40%

【教科書】書 名:精神科臨床における心理アセスメント入門

著者名: 津川律子 発行所: 金剛出版 価格: 2600円(税別)

【参考書】書 名:心理アセスメントレポートの書き方

著者名: E.O.リヒテンバーガー他, 上野一彦監訳

発行所: 日本文化科学社 価格: 3400円(税別)

【その他補足事項】

参考資料として、「公認心理師現任者講習会テキスト」を用いる。

授業科目名	臨床心理	大学没羽 II		授業形態・単位数	演習・2単位		
1文条件日右		1. 化	.供自Ⅱ	開講年次	1年次		
	職名:教授			開講期	後期		
担当教員	ふりがな わたなべつとす。			·		授業回数	15 回
	氏名:渡邉 勉			期末試験の有無	無		
開講キャンパス	福島駅前キャンク	ンパス 授業時間以外		の必要な学修時間	60 時間		
卒業・資	格・免許	授美	業科目区分	必修・選択必修・選択の別			
修了		Ī	專門科目	必修			
臨床心理士		専門科目					
公認心理師		専門科目					
オフィスアワー・メールアドレス等			ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。		

投影法人格検査(主にロ-ルシャッハ法、SCT およびバウム・テスト)の理論および実施法、 分析法、解釈法を学ぶ。まず受講生自身が被検 査者体験をもち、その後に検査者として検査を 実施する。施行後は個別指導を中心として、心 理検査報告書を作成する。

		【授業の概要との対応項目】				
0	A	知識				
0	В	技術・技能				
	С	論理的思考力				
0	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
	J	多様性への理解力、応用力				
0	K	課題対処力				
\circ	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】	_	の概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
心理査定の施行に関わる倫理を理解し、実践できる	目標	L
心理査定の施行から分析・解釈、報告書作成、フィードバック・	D 1444	A D D I
セッションまでの一連の流れを理解し、実施できる	日保	A, B, D, I
心理査定の施行・解釈に関わるパーソナリティ理論を理解し、説明できる	目標	A, B
ロールシャッハ・テストその他の投映法を臨床場面で施行できる	目標	В、К

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 投影法について	資料配布 全体討議	資料学習
2	SCT・バウムテスト (描画法)	資料配布 全体討議	資料学習 担当者準備
3	ロールシャッハ法① 実施法・カード図版について	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備

4	ロールシャッハ法②	資料配布	資料学習
	反応領域	担当者発表	担当者準備
5	ロールシャッハ法③	資料配布	資料学習
	反応決定因(形態・運動)	担当者発表	担当者準備
6	ロールシャッハ法④	資料配布	資料学習
	反応決定因(色彩・陰影)	担当者発表	担当者準備
7	ロールシャッハ法⑤	資料配布	資料学習
	反応内容	担当者発表	担当者準備
8	ロールシャッハ法⑥	資料配布	資料学習
	形態水準	担当者発表	担当者準備
9	ロールシャッハ法⑦	資料配布	資料学習
	スコアリング演習	担当者発表	担当者準備
10	ロールシャッハ法®	資料配布	資料学習
	サマリー作成	担当者発表	担当者準備
11	ロールシャッハ法⑨	資料配布	資料学習
	解釈演習 1	担当者発表	担当者準備
12	ロールシャッハ法 [®]	資料配布	資料学習
	解釈演習 2	担当者発表	担当者準備
13	ロールシャッハ法⑪	資料配布	資料学習
	事例研究 1	担当者発表	担当者準備
14	ロールシャッハ法⑫	資料配布	資料学習
	事例研究 2	担当者発表	担当者準備
15	ロールシャッハ法®	資料配布	資料学習
	まとめ	担当者発表	報告書作成

心理検査報告書の完成度(論理の一貫性、形式、エビデンスの有無)70% 授業参加態度(積極的発言、意欲、主体性)30%

【教科書】書 名: 改訂 新·心理診断法

著者名: 片口安史 発行所: 金子書房 価格: 9500円(税別)

【参考書】書 名:ロールシャッハ・テストの体験的基礎

著者名: E.G.シャハテル 発行所: みすず書房 価格: 4500円(税別)

【その他補足事項】

教科書は教員の指示があるまで購入しないこと

授業科目名	臨床心理	甘江	林宝羽	授業形態・単位数	実習・2単位
1文条件日右			疋大白	開講年次	1年次
				開講期	通年
+12 VV #4* E1	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	教授		松米口粉	30 回
担ヨ教員	担当教員 よりがな きしょしのり わたなべあっこ 氏名:岸良範 ,渡部敦子			授業回数	(1回2コマ)
		~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間	無
卒業・資	格・免許	授美		必修・選択必修・選択の別	
修了		Ę	 事門科目	必修	
臨床心理士	専門科目		必修		
公認心理師 専門科目		 事門科目	選択	Į.	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	oいては初回授業時に	説明します。

前期は、臨床心理学的実践のための基礎的な技術を学びます。まず各症例に対する臨床心理士のかかわりがどのように進行していくのかをケーススタディを通して学び、インテーク、アセスメント、ケースの進行、終結のプロセスにおいてどのような面接技法が必要かを検討します。

後期は、心理臨床相談センターにおいて、新規クライエントに対して教員が行う受理面接の陪席し、授業において問題の所在と見立て、今後の方針等について見解をまとめ、1事例ごとに全体で検討を行います。授業は15回中の2回は心理臨床相談センターにおける陪席に当てられます。

前期は岸が、後期は渡部が担当します。

		【授業の概要との対応項目】
	Α	知識
0	В	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
0	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
0	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	• -> ->	概要・到達目標との対応項 受講して得られる力)
カウンセリングの対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。	目標	B,J
問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力の基礎を持つ。	目標	B,I
臨床的支援の対象に関して見立て及び介入を行うための基礎を 身につける	目標	J,L

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教	授業時間以外 の必要な学修
. ,,,,		材等	【予習・復習】
	基礎実習の進め方についてのオリエンテー	講義	指定された文
1	ション		献及び論文の
			検討
	症例理解のためのオリエンテーション	講義	指定された文
2			献及び論文の

			検討
	 症例理解のための実習(事例研究)	ケースプレゼンテーション	指定された文
3/4	幼児期・児童期の事例の検討	に対してのディスカッショ ン	献及び論文の
		•	検討
5/6	症例理解のための実習(事例研究)Ⅱ 思春期・青年期の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対してのディスカッショ	指定された文 献及び論文の
5/6	心作物,自中别心事例の便可	ン	検討
	症例理解のための実習(事例研究)Ⅲ	ケースプレゼンテーション	指定された文
7/8	成人期以降の事例の検討	に対してのディスカッショ	献及び論文の
		ン 	検討
0/10	事例検討から見えてきた面接技法のポイン	小講義及びグループにお	指定された文
9/10	トの確認① 	けるディスカッション	献及び論文の 検討
11	 面接技法の実習(ロールプレイ)	ロールプレイ及びその振	指定された文
11~		り返り	献及び論文の
15			検討
1.0	数押よりよう	オリエンテーション	臨床の対象に 関する理解
16	後期オリエンテーション		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
17	子どもに関する臨床 発表		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
18	 発達障害に関する臨床 発表	光衣と磯神	発表準備
10			
10	> -) \ > = = = = = = = = = = = = = = = = = =	発表と議論	議論の見直し 発表準備
19	うつという問題 発表		光衣芋脯
		発表と議論	議論の見直し
20	不安という問題 発表		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
21	 インテイク報告 発表	光衣~磯珊	発表準備
	3-71		
0.0	/ \ _ / \	発表と議論	議論の見直し 発表準備
22	インテイク報告 発表		光衣华师
		発表と議論	議論の見直し
23	インテイク報告 発表		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
24	 インテイク報告 発表	光久へ践珊	発表準備
	2		
05	ノンニノカ却什・ジェ	発表と議論	議論の見直し 発表準備
25	インテイク報告 発表		九 久 平 胂
		発表と議論	議論の見直し
26	インテイク報告 発表		発表準備
		改主し送払	議論の見直し
27	 インテイク報告 発表	発表と議論	発表準備

28	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 授業の見直し
29	心理臨床相談センターにおいて、2回のイン テイクに陪席する 授業の 2 回分はその陪 席、観察、スーパーバイズに当てる		
30	同上		

前期/ケースの振り返りレポート 50%

積極的なディスカッション 50%

後期/2 回のインテイク報告の発表に関して合計 80%の評価をします。特に発表が、多角的、実証的、総合的であるかを重視します。発表に関する議論への参加を 20%で評価します。特に積極性と、論理性に関して重視します。

【教科書】使用しません。

【その他補足事項】

本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第 1 種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2 コマ 180分)の授業 15 回をもって 1 単位とする。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。

授業科目名	哈古沙坦	臨床心理基礎実習		授業形態・単位数	実習・2単位
1文条件日右			開講年次	1年次	
				開講期	通年
+12 VV #4* E1		准教授		松米口粉	30 回
担当教員	まりがな すぎやままさひこ さとうゆう き 氏名:杉山雅彦,佐藤佑貴		授業回数	(1回2コマ)	
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間	無
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		必修	
公認心理師			専門科目 選択		1
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	oいては初回授業時に	説明します。

前期は、臨床心理学的実践のための基礎的な技術を学びます。まず各症例に対する臨床心理士のかかわりがどのように進行していくのかをケーススタディを通して学び、インテーク、アセスメント、ケースの進行、終結のプロセスにおいてどのような面接技法が必要かを検討します。

後期は、心理臨床相談センターにおいて、新規クライエントに対して教員が行う受理面接の陪席し、授業において問題の所在と見立て、今後の方針等について見解をまとめ、1事例ごとに全体で検討を行います。授業は15回中の2回は心理臨床相談センターにおける陪席に当てられます。 前期は佐藤が、後期は杉山が担当します。

		【授業の概要との対応項目】
	A	知識
0	В	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
0	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
1		

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項 目】(受講して得られる力)	
カウンセリングの対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点 を持つ。	目標	B,J
問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力の基礎を持つ。	目標	B,I
臨床的支援の対象に関して見立て及び介入を行うための基礎を 身につける	目標	J,L

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	基礎実習の進め方についてのオリエンテー ション	講義	指定された文 献及び論文の 検討
2	症例理解のためのオリエンテーション	講義	指定された文 献及び論文の

			検討
	症例理解のための実習(事例研究) I	ケースプレゼンテーション	指定された文
3/4	幼児期・児童期の事例の検討	に対してのディスカッショ	献及び論文の
		ン	検討
	症例理解のための実習(事例研究)Ⅱ	ケースプレゼンテーション	指定された文
5/6	思春期・青年期の事例の検討	に対してのディスカッショ ン	献及び論文の
		ケースプレゼンテーション	検討
7/8	症例理解のための実習(事例研究)Ⅲ 成人期以降の事例の検討	クーヘノレビンテーション に対してのディスカッショ	指定された文 献及び論文の
110	ルスノくみ」とハード・フェーレリップ(大き)	ン	検討
	事例検討から見えてきた面接技法のポイン	小講義及びグループにお	指定された文
9/10	トの確認①	けるディスカッション	献及び論文の
			検討
11~	面接技法の実習(ロールプレイ)	ロールプレイ及びその振	指定された文
15		り返り 	献及び論文の
		オリエンテーション	検討 臨床の対象に
16	後期オリエンテーション		関する理解
			発表準備
	7 10 1 1 HB 1 W 156 4 W 4	発表と議論	議論の見直し 発表準備
17	子どもに関する臨床 発表		九双平师
			議論の見直し
18	発達障害に関する臨床 発表		発表準備
		-06-L-1 -24-3A	業払の日本 1
19	うつという問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
19	プラCV・万円圏 光衣		71 X - VIII
		発表と議論	議論の見直し
20	不安という問題 発表		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
21	インテイク報告 発表	光衣こ峨珊	発表準備
), ~), 	発表と議論	議論の見直し
22	インテイク報告 発表		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
23	インテイク報告 発表		発表準備
		7V ++ 1 24-2A	送込の日本1
24	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
<u> 4</u>	イマノイン 和ロー光衣		
		発表と議論	議論の見直し
25	インテイク報告 発表		発表準備
		発表と議論	議論の見直し
26	インテイク報告 発表	光衣〜磯神	発表準備
		発表と議論	議論の見直し
27	インテイク報告 発表		発表準備

28	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 授業の見直し
29	心理臨床相談センターにおいて、2回のイン テイクに陪席する 授業の 2 回分はその陪 席、観察、スーパーバイズに当てる		
30	同上		

前期/ケースの振り返りレポート 50%

積極的なディスカッション 50%

後期/2 回のインテイク報告の発表に関して合計 80%の評価をします。特に発表が、多角的、実証的、総合的であるかを重視します。発表に関する議論への参加を 20%で評価します。特に積極性と、論理性に関して重視します。

【教科書】使用しません。

【その他補足事項】

本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第 1 種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2 コマ 180分)の授業 15 回をもって 1 単位とする。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。

授業科目名 臨床心理実習 一			授業形態・単位数	実習・2単位	
汉未行日右			開講年次	2年次	
職名:教授			開講期	通年	
担当教員	ふりがな わたかべつとむ。			授業回数	15 回
	氏名:渡邉勉			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス 授業時間以外		朴の必要な学修時間	無	
卒業・資格	各・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィ	スアワーにつ	いては初回授業時に	説明します。

本科目は、「学内附属施設心理臨床相談セ ンターでの実習」、「学外実習施設での実習」、 「ケースカンファレンスへの参加」の3つの 内容で構成される。このうち、「ケースカン ファレンスへの参加」以外は授業時間外に行 われる。なお本科目は、(財)日本臨床心理士 資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請 の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180 分)の授業15回をもって1単位とする。つ まり、上記授業内容における回数は、1回2 コマとなる。

		【授業の概要との対応項目】
	Α	知識
0	В	技術・技能
	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
		まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発
	Н	信力
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
援助者としてクライエントに関わる態度や心構えを学ぶ。	目標	В
ケース記録をまとめる、ケースプレゼンテーションを行う、ケースカンファレンスに参加することを通して、心理臨床家として必要とされる実践的な技術を高める。	目標	B, I
学外実習施設において、他職種との連携について学ぶ	目標	В
	目標	
	目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作 成

	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
3		ョンとディスカッショ	成
		ン	,,,,
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
4		コンとディスカッショ	成
4			/3/
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	***
			発表資料の作
5		ョンとディスカッショ	成
		ン	The Heaving - II.
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
6		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
7		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習計画発表	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
8	ケースカンファレンス	ョンとディスカッショ	成
		ン	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
9		ョンとディスカッショ	成
		\sim	
	外部実習発表会	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
10	ケースカンファレンス	ョンとディスカッショ	成
10		ン	,,,,
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
11		ョンとディスカッショ	成
11			/3/
	 ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
12		ョンとディスカッショ	成
12)-JX
	ケースカンファレンス	<i>ン</i> ケースプレゼンテーシ	** 主次心のル
10	ケーヘルマファレンハ 		発表資料の作
13		ョンとディスカッショ	成
		<i>y</i>	ma to What to t
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	
14		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
15		ョンとディスカッショ	成
		ン	

- (1) 実習の取り組み (実習回数、実習日誌の提出、参加態度など) 80%
- (2) ケースプレゼンテーション (レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ) 20%

【教科書】使用しない。

【参考書】授業時、適宜紹介する。

【その他補足事項】

- ①本科目では90時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが60時間、ケース担当実習および外部施設実習等時間割外に行うものが30時間となる。
- ②学内ケース担当実習では、心理療法(含む遊戯療法)は最低3ケースを担当する。
- ③外部実習施設での実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。 その際、実習委託費として1日あたり1000円を実費徴収する。
- ④実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。

运 类利日夕	授業科目名 臨床心理実習			授業形態・単位数	実習・2単位
投 案件日名				開講年次	2年次
職名:助教				開講期	通年
担当教員	版石・助教			授業回数	15 回
				期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス		授業時間以外	外の必要な学修時間	無
卒業・資格	各・免許	授業科目区分		必修・選択必修	・選択の別
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィ	スアワーにつ	いては初回授業時に	説明します。

本科目は、「学内附属施設心理臨床相談セ ンターでの実習」、「学外実習施設での実習」、 「ケースカンファレンスへの参加」の3つの 内容で構成される。このうち、「ケースカン ファレンスへの参加」以外は授業時間外に行 われる。なお本科目は、(財)日本臨床心理士 資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請 の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180 分)の授業15回をもって1単位とする。つ まり、上記授業内容における回数は、1回2 コマとなる。

	【授業の概要との対応項目】					
	Α	知識				
0	В	技術・技能				
	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発 信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】)概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
援助者としてクライエントに関わる態度や心構えを学ぶ。	目標	В
ケース記録をまとめる、ケースプレゼンテーションを行う、ケースカンファレンスに参加することを通して、心理臨床家として必要とされる実践的な技術を高める。	目標	B, I
学外実習施設において、他職種との連携について学ぶ	目標	В
	目標	
	目標	

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	オリエンテーション		
1			
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
2		ョンとディスカッショ	成
		ン	

	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
3		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
4		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
5		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
6		ョンとディスカッショ	成
		\sim	
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
7		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習計画発表	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
8	ケースカンファレンス	ョンとディスカッショ	成
		ン	//-
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
9		ョンとディスカッショ	成
		ン	/94
	外部実習発表会	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
10	ケースカンファレンス	コンとディスカッショ	成
10		ソ	/94
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
11		ョンとディスカッショ	成
11		ソ	/-/~
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
12		コンとディスカッショ	成
12		ン	/-/~
	ケースカンファレンス	<u>、</u> ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
13		コンとディスカッショ	成
10)32
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
14			成
14)300
	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	※ 主次判の作
15			光衣貝科の作 成
15		, ,	J-JX.
		ン	

- (1) 実習の取り組み (実習回数、実習日誌の提出、参加態度など) 80%
- (2) ケースプレゼンテーション (レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ) 20%

【教科書】使用しない。

【参考書】授業時、適宜紹介する。

【その他補足事項】

- ①本科目では90時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが60時間、ケース担当実習および外部施設実習等時間割外に行うものが30時間となる。
- ②学内ケース担当実習では、心理療法(含む遊戯療法)は最低3ケースを担当する。
- ③外部実習施設での実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。 その際、実習委託費として1日あたり1000円を実費徴収する。
- ④実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。

授業科目名	水法陪全	発達障害児援助実習 発達障害児援助実習		授業形態•単位数	実習・2単位
1文条件日石	光 建焊音	プロ1万	切天白	開講年次	2年次
	職名:兼担教授 担当教員 ************************************		開講期	通年	
担 当 数 昌			授業回数	30 回	
担当权负			及未凸数	(1回2コマ)	
			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	開講キャンパス 福島駅前キャンパス 授業		授業時間以外の	の必要な学修時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		選択	
臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせ等は佐藤専攻主任まで。			

アスペルガー障害、高機能自閉症、ADHD(注意欠陥/多動性障害)等の発達障害を抱える子ども、発達が気になる子どもを対象として、心理臨床相談センターにおいて発達援助実習を行います。基本的に子ども一人ひとりに対する個別的な行動療法的アプローチを中心として、子どもたちの対人的交流や社会生活上の適応的行動を援助し、伸ばしていくことをねらいます。センター実習と全体での事例検討を綿密に繰り返し、履修者全員の事例検討力、臨床実践力を高めていくこともねらいます。

	【授業の概要との対応項目】					
	Α	知識				
	В	技術・技能				
0	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
0	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
0	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
発達障害とその発達援助について確かな視座をもち、対象者支援		C	
に臨むことができる。	目標	С	
事例個々について適切な見立てと援助を行う臨床実践力を身につける。	目標	C,I,J	
援助者として対象者に関わる態度や心構え、さらには援助し関わ		F,J	
ることの面白さと難しさを学ぶ。			
	目標		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	事前学習① (発達障害児への発達援助理解、対象児のアセス メントと援助方針立案)	事例に関するプレゼン テーションおよびディ スカッション	発表資料の作 成

3 (発達障害児への爰達接助理解、対象児のアセス スカッション スカッション 次 次 トと援助方針で報)		事前学習②	事例に関するプレゼン	発表資料の作
# 前学習③ (発達療書児への発達援助理解、対象児のアセス メントと援助が対立案) 事前学習④ (発達療書児への発達援助理解、対象児のアセス スカッション 事例に関するプレゼン テーションおよびディ スカッション 事所に関するプレゼン 元と援助が対象で 東側に関するプレゼン 元とと援助が対象で 東側に関するプレゼン 元とした 元とを表した 一定 東門 で	3		· ·	成
4 (発達商等児への発達援助理解、対象児のアセス スカッション およびディ スタントと援助方針立案)				発表資料の作
メントと提助方針立案 スカッション 事前学習④ 発表資料の作 発表資料の作 発達援助実習 セッション記録作成 次回セッション原案作成 東例検討④ 東の検討⑥	4			
 (発達院本児への発達援助理解、対象児のアセス スントと援助方針立案) の埋臨床相談センター実習① (発達援助実習・セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討② 事例検討② 事例担当者による発表 差表資料の作成 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事の検討③ 事例検討④ 事例担当者による発表 差表資料の作成 提出 事の検討④ 事例検討④ 事例担当者による発表 差表資料の作成 提出 事の検討④ 事例検討④ 事例担当者による発表 差表資料の作成 提出 事の検討④ 事例検討④ 事例担当者による発表 之全体議論 差全体議論 差全体議論 差全体議論 差全体議論 差全体議論 差全体議論 差全体議論 差点 表表 表表資料の作成 提出 市の検討⑥ 事例検討⑥ 事例担当者による発表 之全体議論 変別検討⑥ 事例担当者による発表 之全体議論 変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変				
スプトンを援助方針に業別	_			
□ ○ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	δ		· ·	1900
19				
本の検討② 本の検討② 本の検討② 本の検討② 本の検討② 本の検討② 本の検討② 本の検討③ 本の検討④ 本の検討③ 本の検討④ 本の検討⑤ 本の検討⑤ 本の検討⑤ 本の検討⑤ 本の検討⑤ 本の検討⑥ 本	6			
1	7	事例検討①	事例担当者による発表	
8	•		と全体議論)3X
2 全体議論 次回程 2 を全体議論 次回程 2 を全体議論 次回程 2 を主義 2 を主義 2 を主義 2 を主き 2 を	Q	事例検討②	事例担当者による発表	
9 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例担当者による発表 と全体議論 発表資料の作成 の	0		と全体議論	PX.
10 事例検討③ 事例検討④ 事例担当者による発表 発表資料の作成 上全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 を全体議論 を全体議論 を全体議論 実習報告書の作成,提出 事例検討⑤ 事例検討⑤ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 東習報告書の作成,提出 支上全体議論 東習報告書の作成,提出 東別投計者による発表 発表資料の作成 上全体議論 東別担当者による発表 発表資料の作成 大型臨床相談センター実習④ 実習報告書の作成,提出 東別投計者による発表 発表資料の作成 東別担当者による発表 発表資料の作成 東別投計④ 東別投計⑥ 東別投計				
10 上の 上の 上の 上の 上の 上の 上の 上	9			
上全体議論 上全体議論 表表資料の作成 東例担当者による発表 発表資料の作成 東の担当者による発表 と全体議論 東習報告書の 作成,提出 東の検討⑤ 東の検討⑥ 東の担当者による発表 上全体議論 東の検討⑦ 東の検討⑦ 東の担当者による発表 光表資料の作成 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の担当者による発表 光表資料の作成 東の検討⑥ 東の担当者による発表 光表資料の作成 東の検討⑥ 東の担当者による発表 光表資料の作成 上全体議論 東の担当者による発表 光表資料の作成 上全体議論 東の担当者による発表 光表資料の作成 上全体議論 東の担当者による発表 光表資料の作成 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の担当者による発表 発表資料の作成 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の担当者による発表 発表資料の作成 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の担当者による発表 発表資料の作成 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の検討⑥ 東の担当者による発表 発表資料の作成 東の検討⑥ 東の経験 東の性対域 東	10	事例検討③	事例担当者による発表	
11	10		と全体議論	, , ,
12 心理臨床相談センター実習③	11	事例検討④	事例担当者による発表	
12 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑤ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 事例検討⑥ 事例担当者による発表 発表資料の作成 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 ル理臨床相談センター実習④ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑦ 事例担当者による発表 を表資料の作成 作成、提出 事例検討⑥ 事例担当者による発表 を表資料の作成 に成 場別 事例担当者による発表 を表資料の作成 に成 場別 事例担当者による発表 を表資料の作成 に成 事例検討⑥ 事例担当者による発表 発表資料の作成 に対 事例検討⑥ ル理臨床相談センター実習⑤ の理臨床相談センター実習⑤ の理臨床相談センター実習⑤ の理臨床相談センター実習⑤ の理臨床相談センター実習⑤ の理なられば、次回セッション原案作成) 事例担当者による発表 発表資料の作成 を全体議論 を表資料の作成 を全体議論 を表資料の作成 を全体議論 を表資料の作成 を全体議論 を表資料の作成 を全体議論 を表資料の作成 を全体議論	11		と全体議論	
13 事例検討⑤ 事例検討⑥ 事例担当者による発表 発表資料の作成 事例検討⑥ 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 と全体議論 実習報告書の 作成,提出 事例検討⑦ 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 と全体議論 事例担当者による発表 光表資料の作成 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成 規出 を対しています。 ま習報告書の 作成,提出 を対しています。 ま習報告書の 作成,提出 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成 表表資料の作成 まずまます。 まずまますます。 まずまます。 まずまます。 まずまます。 まずまます。 まずまます。 まずまます。 まずまますます。 まずまます。 まずまますます。 まずまます。 まずまます。 まずまますますます。 ますますます。 ますますます。 まずまます。 まずまますますますますますますます。 ますますますますますますます。 ますますますます	10			
13 本の担当者による発表 と全体議論 成 14 事例検討⑥ 事例担当者による発表 と全体議論 発表資料の作成 15 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 実習報告書の作成,提出 16 事例検討⑦ 事例担当者による発表 と全体議論 発表資料の作成 17 事例検討⑧ 事例担当者による発表 と全体議論 発表資料の作成 18 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 実習報告書の作成,提出 19 事例検討⑨ 事例担当者による発表 を表資料の作成	12			
14 事例検討⑥	13	事例検討⑤	事例担当者による発表	
14 プリング 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大			と全体議論	, , ,
15 心理臨床相談センター実習④	14	事例検討⑥	事例担当者による発表	
15 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 16 事例検討⑦ 事例担当者による発表 発表資料の作成 と全体議論 17 事例検討® 事例担当者による発表 と全体議論 18 心理臨床相談センター実習⑤ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成 提出 「実習報告書の作成,提出 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成 が同せの ション原案作成)	14		と全体議論	, , ,
16 (発達援助美智、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑦ 事例検討③ 事例担当者による発表 と全体議論 事例検討③ 事例担当者による発表 と全体議論 発表資料の作成 と全体議論 と全体議論 と全体議論 実習報告書の 作成,提出 ション原案作成) 事例検討③ 事例検討④ 事例担当者による発表 発表資料の作成 が回セッション原案作成) 事例担当者による発表 発表資料の作成 が回せった かっと	1 =			
16 すりがと当れによる光表 と全体議論 17 事例検討® 事例担当者による発表 と全体議論 発表資料の作成 18 心理臨床相談センター実習⑤ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 実習報告書の作成,提出 19 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成	15			117月入, 17年11日
2全体議論 2を全体議論 2を全体議論 3を主義	16	事例検討⑦	事例担当者による発表	_
17 上 1 1 1 1 1 1 1 1 1	10		と全体議論	FX.
18 心理臨床相談センター実習⑤ 実習報告書の作成,提出 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑨ 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成	177	事例検討⑧	事例担当者による発表	
18 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑨ 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成	11		と全体議論	<i>p</i> X
18 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成) 事例検討⑨ 事例担当者による発表 発表資料の作成				
事例検討 ⁹ 事例担当者による発表 発表資料の作成	18	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		TF风,旋出
19 成是当相代文艺儿教		ション原案作成)		
19	10	事例検討⑨	事例担当者による発表	
ı i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	19		と全体議論	以

	まないこ		700 - VA VA VIVI - 111
20	事例検討⑩	事例担当者による発表	発表資料の作成
		と全体議論	/-/~
	心理臨床相談センター実習⑥		実習報告書の
21	 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		
	事例検討⑪	事例担当者による発表	発表資料の作
22		と全体議論	成
	事例検討⑫	事例担当者による発表	発表資料の作
23		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習⑦		実習報告書の
24	 (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		
٥.	事例検討⑬	事例担当者による発表	発表資料の作
25		と全体議論	成
	事例検討⑭	事例担当者による発表	発表資料の作
26		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習⑧		実習報告書の
27	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		
0.0	事例検討⑮	事例担当者による発表	発表資料の作
28		と全体議論	成
	事例検討⑯	事例担当者による発表	発表資料の作
29		と全体議論	成
	まとめ-実習総括、個々の振り返り	全体議論	
30	8000人日前11日、同下・200人のラ		

授業参加態度 (意欲・主体性) 50%

センター実習での取り組み(適切な見立てに基づく効果的な援助ができているかどうか)50%

【教科書】使用しません。

【その他補足事項】

- ※1 本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180分)の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。
- ※2 本科目は担当教員が履修者を等分に2グループ(板垣教授担当グループ、佐藤准教授担当グループ)に分けます。ただし、事例理解の多面性と豊かな実践力を高めるため、授業は同じ教室にて行い、複数名の視点から指導をします。
- ※3 臨床実践力を高めるためには、実習による学びが非常に有効です。上記に定める実習時間は単位認定にかかる最低時間数ですので、積極的に実習に取り組んでいただくことを望みます。また、心理的支援の進行の都合によっても、上記に定める実習時間以上に実習を担当していただくことがあります。

授業科目名	発達障害児援助実習			授業形態•単位数	実習・2単位		
1文未符日石	光连焊音	古几饭 奶天白 [连悼音冗饭助关首		開講年次	2年次
				開講期	通年		
担当教員	職名:准教授			授業回数	30 回		
担ヨ教員	うりがな さとうゆうき 氏名:佐藤佑貴			1文 耒 凹 数	(1回2コマ)		
				期末試験の有無	無		
開講キャンパス	福島駅前キャン	パス	授業時間以外の	の必要な学修時間			
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別			
修了		専門科目		選択			
臨床心理士		専門科目		選択			
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィ	スアワーについ	ては初回授業時に該	泊明します。		

【授業の概要】

アスペルガー障害、高機能自閉症、ADHD(注 意欠陥/多動性障害) 等の発達障害を抱える子ど も、発達が気になる子どもを対象として、心理 臨床相談センターにおいて発達援助実習を行 います。基本的に子ども一人ひとりに対する個 別的な行動療法的アプローチを中心として、子 どもたちの対人的交流や社会生活上の適応的 行動を援助し、伸ばしていくことをねらいま す。センター実習と全体での事例検討を綿密に 繰り返し、履修者全員の事例検討力、臨床実践 力を高めていくこともねらいます。

	【授業の概要との対応項目】					
	Α	知識				
	В	技術・技能				
0	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
0	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力				
\circ	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
0	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	$_{ m L}$	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
発達障害とその発達援助について確かな視座をもち、対象者支援	目標	С
に臨むことができる。		
事例個々について適切な見立てと援助を行う臨床実践力を身につける。	目標	C,I,J
援助者として対象者に関わる態度や心構え、さらには援助し関わ	□ ==	F,J
ることの面白さと難しさを学ぶ。	目標	
	目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	事前学習① (発達障害児への発達援助理解、対象児のアセス メントと援助方針立案)	事例に関するプレゼン テーションおよびディ スカッション	発表資料の作 成

	事前学習②	事例に関するプレゼン	発表資料の作
3	(発達障害児への発達援助理解、対象児のアセス	テーションおよびディ	成
	メントと援助方針立案)	スカッション 事例に関するプレゼン	発表資料の作
4	事前学習③ (発達障害児への発達援助理解、対象児のアセス	テーションおよびディ	成
	メントと援助方針立案)	スカッション	
	事前学習④	事例に関するプレゼン	発表資料の作
5	(発達障害児への発達援助理解、対象児のアセス メントと援助方針立案)	テーションおよびディ スカッション	成
	心理臨床相談センター実習①		実習報告書の
6	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ ション原案作成)		作成,提出
7	事例検討①	事例担当者による発表	発表資料の作 成
_ ′		と全体議論	50人
8	事例検討②	事例担当者による発表	発表資料の作
8		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習②		実習報告書の
9	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ ション原案作成)		作成,提出
10	事例検討③	事例担当者による発表	発表資料の作 成
10		と全体議論	//-
11	事例検討④	事例担当者による発表	発表資料の作
11		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習③		実習報告書の
12	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ ション原案作成)		作成,提出
13	事例検討⑤	事例担当者による発表	発表資料の作 成
10		と全体議論	, , .
14	事例検討⑥	事例担当者による発表	発表資料の作
14		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習④		実習報告書の
15	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		作成,提出
10	事例検討⑦	事例担当者による発表	発表資料の作
16		と全体議論	成
1.77	事例検討⑧	事例担当者による発表	発表資料の作
17		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習⑤		実習報告書の
18	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		
10	事例検討⑨	事例担当者による発表	発表資料の作
19		と全体議論	成
L	İ	l .	

20	事例検討⑩	事例担当者による発表	発表資料の作成
20		と全体議論).J.X.
	心理臨床相談センター実習⑥		実習報告書の
21	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		が 主 次 心 の た
22	事例検討⑪	事例担当者による発表	発表資料の作 成
		と全体議論)4%
0.0	事例検討⑫	事例担当者による発表	発表資料の作
23		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習⑦		実習報告書の
24	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		The state View line
25	事例検討⑬	事例担当者による発表	発表資料の作成
20		と全体議論)JX.
2.0	事例検討⑭	事例担当者による発表	発表資料の作
26		と全体議論	成
	心理臨床相談センター実習⑧		実習報告書の
27	(発達援助実習、セッション記録作成、次回セッ		作成,提出
	ション原案作成)		
28	事例検討⑮	事例担当者による発表	発表資料の作 成
20		と全体議論)JX
20	事例検討⑯	事例担当者による発表	発表資料の作
29		と全体議論	成
	まとめ-実習総括、個々の振り返り	全体議論	
30			

授業参加態度 (意欲・主体性) 50%

センター実習での取り組み(適切な見立てに基づく効果的な援助ができているかどうか)50%

【教科書】使用しません。

【その他補足事項】

- ※1 本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180分)の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。
- ※2 本科目は担当教員が履修者を等分に2グループ(板垣教授担当グループ、佐藤准教授担当グループ)に分けます。ただし、事例理解の多面性と豊かな実践力を高めるため、授業は同じ教室にて行い、複数名の視点から指導をします。
- ※3 臨床実践力を高めるためには、実習による学びが非常に有効です。上記に定める実習時間は単位認定にかかる最低時間数ですので、積極的に実習に取り組んでいただくことを望みます。また、心理的支援の進行の都合によっても、上記に定める実習時間以上に実習を担当していただくことがあります。

授業科目名	小畑宇	·····································		授業形態•単位数	実習・5単位
汉未符日石	心理実践実習B		自 D	開講年次	1年次
	職名:教授 教	 数授	助教	開講期	通年
担当教員	ありがな すぎやままさひこ いたがきけんたろ 氏名:杉山雅彦,板垣健太良		うう きむらやすひろ	授業回数	30 回
			郎,木村泰博	期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパ	ス	授業時間以外	トの必要な学修時間	無
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修	・選択の別
修了		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・	メールアドレス等	オフィ	スアワーについ	いては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】

本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「カンファレンス」の3つの内容で構成される。このうち、「カンファレンス(学外・学内両実習)」以外は授業時間外に行われる。

学内実習は通年で陪席実習を中心に行う。 学外実習は、医療・福祉・司法各領域の専門 機関における見学実習(前期)と同機関にお けるケース担当実習(後期)に分かれる。ま た、各機関の実習後に担当業務やケースにつ いてのカンファレンスを実施する。

	【授業の概要との対応項目】					
0	Α	知識				
0	В	技術・技能				
	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
		まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発				
	Η	信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
0	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	T	人間関係 対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】		機要・到達目標との対応 受講して得られる力)
検査法・面接法等によりケースのアセスメントができる。	目標	B,J
ケースについての支援計画が策定できる。	目標	B, I
学外実習施設において、他職種および地域との連携について学ぶ。	目標	A,B
公認心理師としての職業倫理および法的義務について説明でき る。	目標	A
	月標	

□ */ _*	校华二 — 核华中岛	授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外の以票な労権
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法) 、使用教 材等	の必要な学修 【予習・復習】
	オリエンテーション	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
1	学内ケースカンファレンス	ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
2		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
3		ョンとディスカッショ	成

		·	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
4	学内ケースカンファレンス 	カースプレセンテーシ ョンとディスカッショ	発衣資料の作 成
4)**X
	 学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
5	, , ,	ョンとディスカッショ	成
		\sim	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
6		ョンとディスカッショ	成
		ン	
_	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
7		陪席と事前事後のディ	作成,提出
	 陪席実習	スカッション 教員担当のケースへの	実習報告書の
8		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	1,7,73, 33.
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
9		ョンとディスカッショ	成
		×	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
10		ョンとディスカッショ	成
	陪席実習	ン 教員担当のケースへの	実習報告書の
11	陌所天白 	一次負担目のケースへの	たら報ら音の 作成,提出
11		スカッション	17/4 % , LEE
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
12		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	-00 -la V/ 101 - 11 -
10	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
13		ョンとディスカッショ	成
	 外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
14		ョンとディスカッショ	成
			//-
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
15		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
16		ョンとディスカッショ	成
	15	<u> </u>	4 77 11 4 4 5
17	陪席実習	教員担当のケースへの 陪席と事前事後のディ	実習報告書の 作成,提出
17		おから おりまなの / イ スカッション	11F风,1定山
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
18		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
19		ョンとディスカッショ	成
		ン	

	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
90		ョンとディスカッショ	光衣負付の下 成
20)JX.
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
21		ョンとディスカッショ	成
		\sim	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
22		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
23		ョンとディスカッショ	成
23		, , ,	JJX
		<i>y</i>	-to -to V5- viol - 11 -
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
24		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
25		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
26		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
27		ョンとディスカッショ	成
			/*/~
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
	子トラク 一人ルンファレンス 		
28		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
29		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
30	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	ョンとディスカッショ	成
		ン	//-
		~	

- (1) 実習の取り組み (実習回数、実習日誌の提出、参加態度など) 80%
- (2) ケースプレゼンテーション(レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ) 20%

【その他補足事項】

- ①本科目では225 時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが60 時間、陪席実習および見学実習等時間割外に行うものが165 時間となる。
- ②また、学内実習は陪席実習とケースカンファレンスを中心に行う。学外実習は、施設見学実習およびケース担当実習を行う。実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。
- ③実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。
- ④外部実習では、実習委託費として1日あたり1000円を実費徴収する。

授業科目名	八畑宝	⊯宝羽 p		授業形態·単位数	実習・5単位
汉未符日石	心理実践実		自 D	開講年次	1年次
	職名:教授 教授 准		准教授	開講期	通年
担当教員	なりがな きしよしのり わたなべあっこ き 氏名:岸良範,渡部敦子, 位		さとうゆうき	授業回数	30 回
			佐藤佑貴	期末試験の有無	無
開講キャンパス	開講キャンパス 駅前キャンパス		授業時間以外	の必要な学修時間	無
卒業・資	格・免許	授業科目区分 必修・選択必修・選択		・選択の別	
修了		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目		必修	
臨床心理士	専門科目選択		5		
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィ	スアワーについ	ハては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】

本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「カンファレンス」の3つの内容で構成される。このうち、「カンファレンス(学外・学内両実習)」以外は授業時間外に行われる。

学内実習は通年で陪席実習を中心に行う。 学外実習は、医療・福祉・司法各領域の専門 機関における見学実習(前期)と同機関にお けるケース担当実習(後期)に分かれる。ま た、各機関の実習後に担当業務やケースにつ いてのカンファレンスを実施する。

	【授業の概要との対応項目】					
0	Α	知識				
0	В	技術・技能				
	С	論理的思考力				
	D	文章表現力				
	Е	表情及び身体表現力				
	F	感性及び感動表現力				
	G	協働能力				
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発 信力				
0	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力				
0	J	多様性への理解力、応用力				
	K	課題対処力				
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力				

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
検査法・面接法等によりケースのアセスメントができる。	目標	В,Ј
ケースについての支援計画が策定できる。	目標	B, I
学外実習施設において、他職種および地域との連携について学ぶ。	目標	A,B
公認心理師としての職業倫理および法的義務について説明でき る。	目標	A
	目標	

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	オリエンテーション	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
1	学内ケースカンファレンス	ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
2		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
3		ョンとディスカッショ	成
		ン	

		1	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
4		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
5		ョンとディスカッショ	成
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
6		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
7		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
8		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
9		ョンとディスカッショ	成
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
10		ョンとディスカッショ	成
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
11		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	,,,,,,
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
12		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
13		ョンとディスカッショ	成
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
14		ョンとディスカッショ	成
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
15		ョンとディスカッショ	成
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
16		ョンとディスカッショ	成
		ン	
		教員担当のケースへの	実習報告書の
17		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	11/94) 42
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
18		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	,,,,,,
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
19		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
20		ョンとディスカッショ	成
		ン	
<u> </u>		<u> </u>	

21	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ ョンとディスカッショ	発表資料の作 成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
22		ョンとディスカッショ	成
		\[\sum_{\sum_{\color}} \]	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
23		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
24		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
25		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	陪席実習	教員担当のケースへの	実習報告書の
26		陪席と事前事後のディ	作成,提出
		スカッション	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
27		ョンとディスカッショ	成
		\sim	
	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
28		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
29		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーシ	発表資料の作
30		ョンとディスカッショ	成
		ン	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-	

- (1) 実習の取り組み (実習回数、実習日誌の提出、参加態度など) 80%
- (2) ケースプレゼンテーション (レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ) 20%

【その他補足事項】

- ①本科目では225時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが60時間、陪席実習および見学実習等時間割外に行うものが165時間となる。
- ②また、学内実習は陪席実習とケースカンファレンスを中心に行う。学外実習は、施設見学実習およびケース担当実習を行う。実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。
- ③実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。
- ④外部実習では、実習委託費として1日あたり1000円を実費徴収する。

拉 坐 利 日 夕	授業科目名 協床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位	
1文条件日名		木烬	1471 JL I	開講年次	1年次
職名:教授		開講期	前期		
担当教員	ふりがな			授業回数	時間割外
	氏名:星野仁彦			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目選択			
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します			
				等は研究室(福島駅前キ	ャンパス E301) にお
		越しください。			

【授業の概要】

自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。

※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。

		【授業の概要との対応項目】						
	0	A	知識					
,		В	技術・技能					
	0	С	論理的思考力					
`	0	D	文章表現力					
		E	表情及び身体表現力					
		F	感性及び感動表現力					
	G 協働能力							
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力					
		Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力					
	0	J	多様性への理解力、応用力					
		K	課題対処力					
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力					

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
① 自らの関心を絞り込む。	目標	A, C, J
② 心理学・精神医学の論文の読み方、まとめ方を学ぶ。	目標	A, C
③ 研究計画をたてる。	目標	A, C, D, J
	目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1~2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関 心に関連する情 報を収集する。
3~ 10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読 み、レジュメを 作成する。
11~ 15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と そのブラッシュ アップ。

- ・先行研究を精読しまとめることができているか(60%)
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる 研究計画が作成できているか(40%)、という観点から評価します。

授業科目名	臨床心理語	田旦百	TIL TU I	授業形態・単位数	演習・2 単位
汉耒 件日名		木咫	14月プ し I	開講年次	1年次
	職名:教授			開講期	前期
担当教員	ふりがな	又		授業回数	時間割外
	氏名:杉山雅彦			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士			専門科目	選択	
公認心理師	\認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】

学生それぞれの関心に沿っての研究課題ある いは論文に関して基礎的な知識及び研究の現 状に関して検討していきます。関心領域に関す る学会誌等の学術論文を精読していく過程で 研究法に関して明確にし、研究のプロセスに関 する理解を深めていきます。

※研究倫理に関する説明が授業の初期に含ま れています。

0	Α	知識
	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	Ι.	人間関係 対人関係構築力及び対話力

【授業の概要との対応項目】

【授業	業の到達目標】	, .,	概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
1	目的を明確にし、研究テーマを決定する	目標	A, C,
2	研究倫理について理解する。	目標	A,
3 7	研究計画の作成	目標	A, C, J
4	先行研究のレポート	目標	A, C, J
		目標	

- Net		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	関心のブラッシュアップ	ディスカッション	【予習】自他の
			心理や社会から
			の情報をキャッ
			チし言葉にす
1~3			る。
			【復習】授業で
			のディスカッシ
			ョンの論点をま
			とめる。

	先行研究の探索とレポート	先行研究に関するプレ	【予習】先行
		ゼンテーションとディ	研究を収集
		スカッション	し、レジュメ
			を作成する。
$4 \sim 9$			【復習】授業
			で挙がった課
			題について調
			査し、見通し
			を持つ。
	研究計画書の作成および、先行研究のディス	ディスカッション	【予習】研究
	カッション		の方法論につ
			いて調べてく
10~			る。
15			【復習】授業
19			でのディスカ
			ッションの論
			点をまとめ
			る。

関心領域に関連する基礎知識の学習程度 (30%)

先行研究の収集及びレビューのレベル (50%)

テーマ、研究計画の立案 (20%)

について評価します。

【教科書】使用しません。

【参考書】授業内で適宜紹介します。

授業科目名	路 中 八 畑 割	第二百二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二		臨床心理課題研究 I 授業形態・単位数		授業形態・単位数	演習・2 単位	
1文条件日石		木烬	1471 JL I	開講年次	1年次			
	職名:教授			開講期	前期			
担当教員	ふりがな わたなべつとむ	つとむ		授業回数	時間割外			
氏名:渡邉 勉				期末試験の有無	無			
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		の必要な学修時間	60 時間				
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別				
修了		専門科目		必修				
臨床心理士	臨床心理士		専門科目	選択				
公認心理師		専門科目		選択				
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します			

【授業の概要】			【授業の概要との対応項目】	
自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テ		Α	知識	
		В	技術・技能	
ーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する世界の内容、研究はよっいて党権し	0	С	論理的思考力	
る概念や先行研究の内容、研究法について学修し- ます。それらを踏まえて、研究計画を作成してい- きます	0	D	文章表現力	
		Е	表情及び身体表現力	
きます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれ		F	感性及び感動表現力	
でいます。		G	 協働能力	
CV. Ly.		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	0	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)	
関心を絞り込む。			目標 A、C、J	
論文の読み方、まとめ方を学ぶ。			目標 A、C	
研究計画を立てる			目標 A、C、D、J	
			目標	
			•	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1~2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関 心に関連する情 報を収集する。
3~ 10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読 み、レジュメを 作成する。
11~ 15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と そのブラッシュ アップ。

- ・先行研究を精読しまとめることができているか(60%)
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる 研究計画が作成できているか(40%)、という観点から評価します。

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位	
1文条件日石		木烬	1471 JL I	開講年次	1年次
	職名:教授	(夕· 新坪			前期
担当教員	ふりがな			授業回数	時間割外
	氏名:岸良範			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士	臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師	公認心理師		専門科目 3		択
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します

【授業の概要】 自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。 「良業の到達目標」 「投業の到達目標」 「授業の概要との対応項目】 「投業の根要との対応項目】 「良藤・技能 「○ C 論理的思考力 「○ D 文章表現力 「E 表情及び身体表現力 「E 表情及び身体表現力 「E 表情及び身体表現力 「E 表情及び身体表現力 「「人間関係力」」 「関連的発言力及びプレゼンテーション力 「○ J 多様性への理解力、応用力 「					
自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。 旧ませています。 「は難の到達目標」 「投業の到達目標」 「投業の到達目標」 「投業の読み方、まとめ方を学ぶ。 日標 A、C、J 日標 A、C、D、J 日標 A、C、D、J	【授業の概要】			【授業の概要との対応項目】	
				知識	
る概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。			В	技術・技能	
 る概念や先行研究の内容、研究法について字修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。 日本の担保を担からでは、		0	C		
きます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。 E 表情及び身体表現力 	ます。それらを踏まえて、研究計画を作成してい	0	†		
 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。 「			Е	表情及び身体表現力	
ています。	※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれ		F	感性及び感動表現力	
H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 I 積極的発言力及びプレゼンテーション力 O J 多様性への理解力、応用力 K 課題対処力 L 人間関係、対人関係構築力及び対話力 「授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力) 関心を絞り込む。 目標 A、C、J 論文の読み方、まとめ方を学ぶ。 目標 A、C 研究計画を立てる 目標 A、C、D、J			G	協働能力	
			Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
K 課題対処力 L 人間関係、対人関係構築力及び対話力 【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力) 関心を絞り込む。 目標 A、C、J 論文の読み方、まとめ方を学ぶ。 目標 A、C 研究計画を立てる 目標 A、C、D、J			Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
L 人間関係、対人関係構築力及び対話力 【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力) 関心を絞り込む。 目標 A、C、J 論文の読み方、まとめ方を学ぶ。 目標 A、C 研究計画を立てる 目標 A、C、D、J		0	J	多様性への理解力、応用力	
【授業の倒達目標】 【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力) 関心を絞り込む。 目標 A、C、J 論文の読み方、まとめ方を学ぶ。 目標 A、C 研究計画を立てる 目標 A、C、D、J			K	課題対処力	
【授業の到達目標】 項目】(受講して得られる力) 関心を絞り込む。 目標 A、C、J 論文の読み方、まとめ方を学ぶ。 目標 A、C 研究計画を立てる 目標 A、C、D、J			L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
論文の読み方、まとめ方を学ぶ。目標 A、C研究計画を立てる目標 A、C、D、J	【授業の到達目標】			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
研究計画を立てる 目標 A、C、D、J	関心を絞り込む。			目標 A、C、J	
	論文の読み方、まとめ方を学ぶ。			目標 A、C	
目標	研究計画を立てる			目標 A、C、D、J	
				目標	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1~2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関 心に関連する情 報を収集する。
3~ 10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読 み、レジュメを 作成する。
11~ 15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と そのブラッシュ アップ。

- ・先行研究を精読しまとめることができているか(60%)
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる 研究計画が作成できているか(40%)、という観点から評価します。

					1777 1724
授業科目名	臨床心理課題研究 I			授業形態・単位数	演習・2 単位
		术匹	14月 九 1	開講年次	1 年次
	職名:准教授	薬タ・ 准 新 坪			前期
担当教員 よりがな わたなべあっこ				授業回数	時間割外
	氏名:渡部敦子			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外		の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士			専門科目	選択	
公認心理師	!師 専門科目		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	イスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要との対応項目】 【授業の概要】 ○ A 知識 自らの関心を深めていき、それを心理学的研究の 技術・技能 В テーマとして設定する。テーマにまつわる書籍、 \bigcirc С 論理的思考力 論文等を読み込むなかで、関連する概念や先行研 \bigcirc D 文章表現力 究の内容、研究法を身につけていく。それらを踏 E 表情及び身体表現力 まえて、研究計画を作成する。 F 感性及び感動表現力 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれ 協働能力 \mathbf{G} ています。 まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 Η Ⅰ ┃ 積極的発言力及びプレゼンテーション力 J 多様性への理解力、応用力 K 課題対処力 人間関係、対人関係構築力及び対話力 【授業の概要・到達目標との対応 【授業の到達目標】 項目】(受講して得られる力) ①自らの関心を絞り込む。 目標 A、C、J ②心理学の論文の読み方、まとめ方を学ぶ。 目標 A、C ③研究計画をたてる。 目標 A、C、D、J 目標

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1~3	自らの関心の絞り込み	ディスカッション	世の中の様々な事象や文献など自身の興味・関心に関連するものをピックアップする。
4~ 10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読 み、レジュメを 作成する
11~ 15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成と そのブラッシュ アップ

- ・先行研究を精読しまとめることができているか(60%)
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる 研究計画が作成できているか(40%)、という観点から評価します。

極	臨床心理課題研究 I		TIL TU T	授業形態・単位数	演習・2 単位	
授業科目名		1 保趣研允 1		開講年次	1年次	
	職名:准教授			開講期	前期	
担当教員	ふりがな			授業回数	時間割外	
氏名:佐藤佑貴		期末試験の有無	無			
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授	業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
修了		専門科目		必修		
臨床心理士		専門科目		選択		
公認心理師		専門科目		選択		
オフィスアワー・メールアドレス等			ィスアワーに~	ついては初回授業時に	説明します。	

【授業の概要】

各自の関心から、研究テーマおよびリサーチク エスチョン (RQ) を決定するプロセスを経て 研究計画を作成する。新たな意義ある RQ を創 出するために、先行研究のクリティーク(批判 的検討)を行い、RQの解明のために適切な手 段を選択できるよう、研究の方法論についても 学びを深めます。

※研究倫理に関する説明が授業の初期に含ま れています。

		【授業の概要との対応項目】
0	Α	知識
	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
0	D	文章表現力
	Е	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
① 関心を言葉および文章で表現することで、より明確にできる。	目標	A, C, J	
②先行研究を批判的に読むことができる。	目標	A, C	
③RQ の解明のために必要な方法を選択することができる。	目標	A, C, D, J	
	目標		

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	関心のブラッシュアップ	ディスカッション	【予習】自他
			の心理や社会
			からの情報を
			キャッチし言
			葉にする。
1~3			【復習】授業
			でのディスカ
			ッションの論
			点をまとめ
			る。

4~9	先行研究のクリティーク	先行研究に関するプレゼンテーションとディスカッション	【予習】先行 研究をジュる。 し、作成習】で超いた で選がいい 題に、見通し をし、見通し
10~ 15	研究計画書の作成	ディスカッション 各回レポート作成	を持つ。 【予習】研究 のがでいる。 ででいる。 でのショま でのショま でのショまる。

- ・先行研究の要点および課題等をまとめることができているか、レジュメとプレゼンテーションにおいて評価します(40%)。
- ・研究計画書の形式に則り、かつ論理的に記述ができているか、各回のレポートにより評価します (60%)。

【教科書】使用しません。

【参考書】授業内で適宜紹介します。

拉米利日 4	哈古 之: 田	章田 耳ⅰ	SILVE II	授業形態•単位数	演習・2 単位	
授業科目名		課題研究Ⅱ		開講年次	1年次	
	職名:教授			開講期	後期	
担当教員	担当教員 よりがな ほしのよしひこ		授業回数		時間割外	
	氏名:星野仁彦			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間 60 時間		
卒業・資	格・免許	授	業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
修了		j	専門科目	必修		
臨床心理士		専門科目		選択		
公認心理師			専門科目	選択		
オフィスアワー・メールアドレス等			オフィスアワーについては初回授業時に説明します ※事前の問い合わせ等は研究室(福島駅前キャンパス E30 お越しください。			

【授業の概要】	【授業の			概要との	対応項目】
研究計画をブラッシュアップし、予備研究を始	0	A	知識		
伽九計画をノノツンユノツノし、「伽伽九を畑		В	技術・技能		
めます。また、予備研究を学会等にて発表でき	0	С	論理的思考		
るよう準備を進めます。		D	文章表現力	j	
		Ε	表情及び身	∤体表現力	
		F	感性及び愿	以動表現力	
		G	協働能力		
		Н	まごころ、	思いやりの	発現力と夢や希望の発信力
		Ι	積極的発言	言力及びプ	゚レゼンテーション力
	0	J	多様性への		応用力
	0	K	課題対処力		
		L	人間関係、	対人関係	構築力及び対話力
【授業の到達目標】)概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
① 調査用紙の作成または臨床実践の開始	① 調査用紙の作成または臨床実践の開始				C,J,K
② 調査の実施または実践報告のレポートの作成				目標	C,J,K
③ 先行研究のレビュー作成				目標	A,C,K
				目標	

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	研究計画と先行研究の関連のディスカッシ	ディスカッション	【予習】先行
	ョン		研究の吟味
			【復習】授業
1_			でのディスカ
$\frac{1}{3}$			ッションの論
9			点をまとめ研
			究計画をブラ
			ッシュアップ
			する。

	予備研究関連データのディスカッション	ディスカッション	【予習】研究
			に関連する方
			法手続きの吟
4 -			味
4~ 8			【復習】授業
0			で挙がった課
			題について調
			査し、見通し
			を持つ。
	予備研究の施行とデータに関するディスカ	ディスカッション	【予習】デー
	ッション		タの記述と分
			析
9~			【復習】授業
15			でのディスカ
			ッションの論
			点をまとめ
			尽をまこめ

- ・先行研究のレビューの充実(30%)
- ・研究計画の進捗状況のレポートの提出(40%)
- ・積極的な意見の提示(30%)

【教科書】使用しません。

【参考書】授業内で適宜紹介します。

<u> </u>	(F) - C - T - G - Z - C	3,7,4	×1. —	•	1 //4 1 //2	
松光 到日夕	臨床心理	章田 月言	5 江 / 世 TI	授業形態•単位数	演習・2 単位	
授業科目名			型灯九 11	開講年次	1年次	
	職名:教授			開講期	後期	
担当教員	ふりがな			授業回数	時間割外	
	氏名:杉山雅彦			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンク	福島駅前キャンパス 授業時間以外の		の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授	業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
修了]	専門科目	必修		
臨床心理士		専門科目		選択		
公認心理師		専門科目		選択		
オフィスアワー・メールアドレス等 オフィスアワーについては初回授業時に説明します。					説明します。	

【授業の概要】			【授業の)概要との	対応項目】	
│ │臨床心理課題研究Ⅰで作成された研究計画を	0	A	知識			
		В	技術・技能	Ė		
検討修正しながら、予備研究に着手していきま	0	С	論理的思考	 う力		
す。同時に先行研究のレビューを進め、計画さ		D	文章表現力	b		
		Е	表情及び身	* 体表現力		
れた研究に関して理解を深めていく。予備的な		F	感性及び原	以動表現力		
研究に関しては発表する形がとれるよう準備		G	協働能力	1能力		
を進めます。		Η	まごころ、	ころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
(を)より。		Ι	積極的発言	言力及びプ	゚レゼンテーション力	
	0	J	多様性への)理解力、	応用力	
	0	K	課題対処力	り		
		L	人間関係、	対人関係	構築力及び対話力	
【授業の到達目標】					の概要・到達目標との対応	
【以来の別注日伝】				項目】(受講して得られる力)	
④ 調査用紙の作成または臨床実践の開始				目標	C,J,K	
⑤ 調査の実施または実践報告のレポートの作成					C,J,K	
⑥ 先行研究のレビュー作成						
				日樗		

			1
		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	研究計画と先行研究の関連のディスカッシ	ディスカッション	【予習】先行
	ョン		研究の吟味
			【復習】授業
1.			でのディスカ
$\frac{1}{3}$			ッションの論
Э			点をまとめ研
			究計画をブラ
			ッシュアップ
			する。

	予備研究関連データのディスカッション	ディスカッション	【予習】研究
			に関連する方
			法手続きの吟
4 -			味
4~ 8			【復習】授業
0			で挙がった課
			題について調
			査し、見通し
			を持つ。
	予備研究の施行とデータに関するディスカ	ディスカッション	【予習】デー
	ッション		タの記述と分
			析
9~			【復習】授業
15			でのディスカ
			ッションの論
			点をまとめ
			る。

- ・先行研究のレビューが進んでいくかどうか(30%)
- ・計画の進捗状況が明確になるレポートが提出されるかどうか(40%)
- ・テーマに関するデータの分析(30%)

【教科書】使用しません。

【参考書】授業内で適宜紹介します。

授業科目名	臨床心理語	田旦百	iπ√⊏π	授業形態・単位数	演習・2 単位
汉耒 代日名		术匹	小九山	開講年次	1年次
	聯名・教授				後期
担当教員	ふりがな わたなべつとむ				おりがな 授業回
	氏名:渡邉 勉			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

-			
【授業の概要】			【授業の概要との対応項目】
臨床心理課題研究 I に引き続き、先行研究を精	0	Α	知識
読しながら、並行して研究計画をより精緻なも		В	技術・技能
のに仕上げていく。必要であれば、予備調査等	0	С	論理的思考力
を行います。	0	D	文章表現力
(211 V . 7 A .)		Е	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信が
		Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	0	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)
①研究計画の仕上げ			目標 A、C、D、J
②予備調査の実施			目標 A、C
③データ分析の実施	目標 A、C		
			目標

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1~9	研究計画の作成	が 守 プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成 とブラッシュ アップ
10~ 12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料 準備 統計的分析方 法の復習
13~ 15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析

先行研究を精読しまとめることができているか (20%)、それらを踏まえた研究計画が実行できているか (80%) という観点から評価します。

授業科目名	哈 中心 细	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2 単位
1文条件日名		木烬	14月 九 11	開講年次	1 年次
	職名:教授			開講期	後期
担当教員	ふりがな			授業回数	時間割外
	氏名:岸良範			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	福島駅前キャンパス 授業時間以外の		の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要との対応項目】 【授業の概要】 ○ A 知識 臨床心理課題研究Iに引き続き、先行研究を精 技術・技能 В 読しながら、並行して研究計画をより精緻なも С 論理的思考力 のに仕上げていく。必要であれば、予備調査等 \bigcirc D 文章表現力 を行います。 E 表情及び身体表現力 感性及び感動表現力 F 協働能力 G まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 Η 積極的発言力及びプレゼンテーション力 Ι J 多様性への理解力、応用力 課題対処力 K L 人間関係、対人関係構築力及び対話力 【授業の概要・到達目標との対応 【授業の到達目標】 項目】(受講して得られる力) ①研究計画の仕上げ 目標 A、C、D、J 目標 A、C ②予備調査の実施 ③データ分析の実施 目標 A、C 目標

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	研究計画の作成	プレゼンテーション	研究計画作成
1~9		ディスカッション	とブラッシュ
			アップ
	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料
1.0			準備
10~			統計的分析方
12			
			法の復習
	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデ
13~			ータ分析
15			

先行研究を精読しまとめることができているか (20%)、それらを踏まえた研究計画が実行できているか (80%) という観点から評価します。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ			授業形態・単位数	演習・2 単位	
1文未符日石		木烬	小儿儿	開講年次	1年次	
	職名:准教授	5 W # # 5			後期	
担当教員				授業回数	時間割外	
			期末試験の有無	無		
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別		
修了		専門科目		必修		
臨床心理士		専門科目		選択		
公認心理師		専門科目		選択		
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーに~	ついては初回授業時に	説明します。	

【授業の概要との対応項目】 【授業の概要】 A 知識 臨床心理課題研究Iに引き続き、先行研究を精 B 技術・技能 読しながら、並行して研究計画をより精緻なも C 論理的思考力 のに仕上げていく。必要であれば、予備調査等 \bigcirc D 文章表現力 を行います。 E 表情及び身体表現力 感性及び感動表現力 F 協働能力 G まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 Η 積極的発言力及びプレゼンテーション力 Ι J 多様性への理解力、応用力 K 課題対処力 L 人間関係、対人関係構築力及び対話力 【授業の概要・到達目標との対応 【授業の到達目標】 項目】(受講して得られる力) ①研究計画の仕上げ 目標 A、C、D、J 目標 A、C ②予備調査の実施 ③データ分析の実施 目標 A、C 目標

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教	授業時間以外の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	研究計画の作成	プレゼンテーション	研究計画作成
1~9		ディスカッション	とブラッシュ
			アップ
10~ 12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料 準備 統計的分析方 法の復習
13~ 15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデ ータ分析

先行研究を精読しまとめることができているか (20%)、それらを踏まえた研究計画が実行できているか (80%) という観点から評価します。

授業科目名	 臨床心理調	田旦百	西石エクピ II 授業形態・単位数		演習・2 単位
1文条件日石		木烬	14月 九 11	開講年次	1年次
	職名:准教授			開講期	後期
担当教員	ふりがな			授業回数	時間割外
	氏名:佐藤佑貴			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
公認心理師		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】			【授業の	概要との	対応項目】
臨床心理課題研究 I にて作成した先行研究を		Α	知識		
ブラッシュアップさせます。また、必要に応じ		В	技術・技能	2	
て予備的研究を実施します。	\circ	С	論理的思考		
	\circ	D	文章表現力	J	
		Е	表情及び身	r体表現力	
		F	感性及び感	動表現力	
		G	協働能力		
		Н	まごころ、ノ	思いやりの	発現力と夢や希望の発信力
		Ι	積極的発言	す力及びプ	゚レゼンテーション力
	0	J	多様性への)理解力、	応用力
	0	K	課題対処力	J	
		L	人間関係、	対人関係	構築力及び対話力
【授業の到達目標】					概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
① 文献の読み込みによって研究計画がブラッシュアップされる			目標	C, D, J	
②予備的研究の形式を整え、実施することができる			目標	C, K	
③予備的研究のデータ分析ができる			目標	С	
				目標	

		極業士洪(マカニュゴ.ラ	極器時間以內
		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	研究計画の作成	プレゼンテーション	研究計画作成
1~9		ディスカッション	とブラッシュ
			アップ
	予備研究の実施	ディスカッション	予備的研究資
10~			料作成および
12			整理
	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備的研究の
13~			データ分析
15			

- ・先行研究を精読しまとめることができているか(20%)
- ・それらを踏まえた研究計画を実行しているか(80%)という観点から評価します。

授業科目名	│ │臨床心理課題研究Ⅲ			授業形態・単位数	演習・2 単位	
1文条件日名		端床心理課題岍九Ⅲ [2 年次	
	職名:教授			開講期	前期	
担当教員	ふりがな すぎやままさひこ			授業回数		
	氏名:杉山雅彦			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			トの必要な学修時間	60 時間	
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別		
修了		専門科目		必修		
臨床心理士		専門科目		選択		
オフィスアワー・メールアドレス等			ィスアワーに~	ついては初回授業時に	説明します。	

臨床心理課題研究Ⅱで進められた予備的研究 を継続し先行研究の検討、及び資料収集を行い ます。その上で、作成された研究計画を検討修 正しながら、論文の作成、執筆に入っていきま す。

	【授業の概要との対応項目】						
0	Α	知識					
	В	技術・技能					
0	С	論理的思考力					
	D	文章表現力					
	E	表情及び身体表現力					
	F	感性及び感動表現力					
	G	協働能力					
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力					
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力					
0	J	多様性への理解力、応用力					
0	K	課題対処力					
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力					

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
① 研究も方法に習熟する	目標	A,C,J,K	
②論文に関する問題と目的を明確にする	目標	C,J,K	
③論文の構成を明確にする	目標	C,J,K	
	目標	•	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラ ーニングの方法)、使用教 材等	授業時間以外 の必要な学修 【予習・復習】
1~ 3	予備研究のまとめとディスカッション	ディスカッション	【予習】予備研究の吟味 【復習】授業でのデョンとを でのショとを をま画で をまるで でのからで でのからで でのからで でのからで でのからで でのからで でのかった。

	本研究に関するディスカッションと構成の	ディスカッション	【予習】研究に
	検討		のプロセスに
			関する検討と
			得られた結果
			に関する先行
4~			研究との比較
8			【復習】授業で
			挙がった課題
			について調査
			し、見通しを持
			つ。
	本研究の施行とデータに関するディスカッ	ディスカッション	【予習】本研究
	ション		のデータの記
0 -			述と分析
9~			【復習】授業で
15			のディスカッ
			ションの論点
			をまとめる。

論文の構成がどの程度に達しているのか、作業としてどのように進み、理解が進んでいるかを基準に評価します。

【教科書】使用しません。

【参考書】授業内で適宜紹介します。

	<u> </u>					
授業科目名	臨床心理課題研究Ⅲ			授業形態·単位 数	演習・2 単位	
					開講年次	2年次
	職名:准教授				開講期	前期
担当教員	ふりがな				授業回数	時間割外
	氏名:渡部敦子				期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	外 0	の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修	・選択の別	
修了		専門科目		必修		
臨床心理士			専門科目		選択	
オフィスアワー・	メールアドレス等	オフ	ィスアワーに・	つし	ハては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】		【授業の概要との対応項目】				対応項目】	
臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱにて行ってきた先行研			A	知識			
究の精読および予備研究の再検討を行い			В	技術・技能	技術・技能		
を踏まえた本調査を実施します。データ	-	0	С	論理的思考力			
を暗またに本調査を実施します。 / 一夕: 行い、論文の執筆を始めます。	刀がと	0	D	文章表現力	ı		
11(1、 端文の執筆を始めまり。			Е	表情及び身	体表現力		
			F	感性及び感	動表現力		
			G	協働能力			
			Н	まごころ、思	とごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信 責極的発言力及びプレゼンテーション力		
			Ι	積極的発言			
		0	J	多様性への理解力、応用力		応用力	
		0	K	課題対処力			
			L	人間関係、	対人関係	構築力及び対話力	
【授業の到達目標】						概要・到達目標との対応	
					項目】(受講して得られる力)	
①研究計画の整理をする。				目標	C, D, K		
②本調査を実施する。					目標	C, D, K	
③データ分析を行う。				目標	A, C		
					目標		
	·				日標		

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	研究計画の仕上げ	プレゼンテーション	予備研究の結
		ディスカッション	果を踏まえた
1~4			本調査計画の
			仕上げ
	本調査の実施	ディスカッション	本調査の資料
			準備
$5\sim7$			分析方法の復
			習

8~ 15	本調査のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の 実施と発表準 備				
本調	【到達度の評価 (評価方法・基準)】 本調査の実施状況 (65%)、それ対する理解と考察、論文の進行度合い (35%) を基準に評価します。						
【教科	4書】使用しません。						

	(F) C T (1) //					
授業科目名	臨床心理	塩床心理課題研究Ⅲ			授業形態·単位 数	演習・2 単位
					開講年次	2年次
	職名:准教授			開講期	前期	
担当教員	ふりがな				授業回数	時間割外
	氏名:佐藤佑貴				期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンク	パス	授業時間以外	\ 0	の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分			必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目			必修	
臨床心理士	臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・	メールアドレス等	オフ	ィスアワーに~	つし	ハては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】			【授業の概要との対応項目】		
これまでに設定した研究の問題と目的、方法に		Α	知識		
基づき、本研究を実施します。また、本研究の		В	技術・技能		
	0	С	論理的思考力		
データ分析を行い、論文の執筆を始めます。	0	D	文章表現力		
		Е	表情及び身体表現力		
		F	感性及び感動表現力		
		G	協働能力		
		 	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
		I			
	\circ	J			
	0	K	課題対処力		
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	•		【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
② 子供的研究の対理な敷理する					
① 予備的研究の結果を整理する。					
②本研究を実施する。			目標 C、D、K		
③本研究データ分析を行う。			目標 C		
			目標		

	-	1	
		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション	予備的研究の
		ディスカッション	結果を踏まえ
$1 \sim 4$			た本研究計画
			の仕上げ
	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施の
			ための資料準
$5\sim7$			備
			分析方法の復
			習

目標

8~ 15	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の 実施と発表準 備			
本研	【到達度の評価 (評価方法・基準)】 本研究の実施状況 (65%)、それ対する理解と考察、論文の進行度合い (35%) を基準に評価 します。					
【教科	科書】使用しません。					

心理学研究科臨床心理専攻 授業計画

平成30年度

授業科目名	臨床心理課題研究IV			授業形態•単位数	演習・2 単位
汉未符日石	品が心と	水咫	24月 九11	開講年次	2 年次
	職名:教授	r			後期
担当教員	ふりがな			授業回数	
	氏名:杉山雅彦			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外の			の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィ	ィスアワーにつ	oいては初回授業時に	説明します。

F 1- 1	11.	T
1234 3	# M	概要
I 1 ∀ ∋	長リノ′	\mathbb{Z}^{1}

臨床心理課題研究 I、II、IIIを受けて、討論、スーパービジョンを交えながら修士論文の執筆を進めます。

		【授業の概要との対応項目】
	Α	知識
	В	技術・技能
0	С	論理的思考力
0	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力
0	J	多様性への理解力、応用力
0	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	• -> ->)概要・到達目標との対応 受講して得られる力)
修士論文を提出し、口頭試問に関しての準備対応が出来る。	目標	C,D,J,K
	目標	

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	論文の進行とディスカッション	ディスカッション	【予習】研究
			(論文)の吟味
			【復習】授業で
			のディスカッ
			ションの論点
1~			をまとめ研究
3			計画をブラッ
			シュアップす
			る。

	シャッチに1分田に用してで、コルコ		▼ 33 ▼ ##
	論文の進行と結果に関するディスカッショ	ディスカッション	【予習】研究
	\sim		(論文)の結果
			に関する先行
			研究との比較
4~ 8			【復習】授業で
8			挙がった課題
			について調査
			し、見通しを持
			つ。
	論文の執筆進行と考察	ディスカッション	【予習】研究
			(論文)の分析
0.5			と考察
9~			【復習】授業で
15			のディスカッ
			ションの論点
			をまとめる。

論文が提出されたかどうかを主たる観点とし、その論文が最終的にどのような内容を含んでいるかに関して評価します。

※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。

授業科目名	臨床心理調	田旦百		授業形態・単位数	演習・2 単位
1文未符日石		木烬	はかり ブレエマ	開講年次	2 年次
	職名:准教授	10. 7. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.			後期
担当教員 おりがな かたなべあっこ				授業回数	時間割外
	氏名:渡部敦子			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			トの必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士		専門科目		選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーに~	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】			【授業の概要との対応項目】		
臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、修士論文	0	Α	知識		
の完成を目指します。論文の執筆と必要に応じ		В	技術・技能		
てデータの再分析等を行います。	0	С	論理的思考力		
(アークの特別が等を行いより。	0	D	文章表現力		
		Е	表情及び身体表現力		
		F	感性及び感動表現力		
		G	協働能力		
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
		Ι	積極的発言力及びプレゼンテーション力		
		J	多様性への理解力、応用力		
		K	課題対処力		
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
①データ分析の結果を考察できる。	目標 A、C、D				
②修士論文を完成させる。	目標 A、C、D				
			目標		

2 42 42 1 4 1	• • • •		
		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	データ分析の仕上げと考察	プレゼンテーション	データ分析
1~3		ディスカッション	結果の解釈と
			考察
4~	修士論文の執筆	プレゼンテーション	考察をまとめ
14		ディスカッション	論文を執筆す
14			る
	口頭での研究発表	プレゼンテーション	発表練習と資
15		ディスカッション	料作成
10			

- ・論文の構成 (5%)
- ・データの解釈とそれに対する考察(80%)
- ・文章表現力(5%)
- ・口頭での説明力(10%)これらについて評価します。
- ※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。

授業科目名	臨床心理調	田旦百	TII.7℃ T 7	授業形態・単位数	演習・2 単位
1文条件日右		木烬	24月 プレエV	開講年次	2年次
	10. 万 .) 化 4. 11. 12.			開講期	後期
担当教員	職名:准教授 担当教員 まりがな まとうゆう ま 氏名:佐藤佑貴			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス 授業時間以外			の必要な学修時間	60 時間
卒業・資	格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目		必修	
臨床心理士	床心理士			選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフ	ィスアワーにつ	ついては初回授業時に	説明します。

【授業の概要】		【授業の概要との対応項目】			
本科目では、臨床心理課題研究 I・II・IIIに続	0	Α	知識		
		В	技術・技能		
き、修士論文の完成を目指します。研究結果に	0	С	論理的思考力		
基づき、論文の執筆と必要に応じてデータの再	0	D	文章表現力		
分析等を行います。		E	表情及び身体表現力		
		F	感性及び感動表現力		
		G	協働能力		
		Н	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
		11 T	積極的発言力及びプレゼンテーション力		
		J	多様性への理解力、応用力		
		K	課題対処力		
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	1	<u> </u>	【授業の概要・到達目標との対応 項目】(受講して得られる力)		
①データ分析の結果を考察できる。			目標 A、C、D		
②修士論文を完成させる。			目標 A、C、D		
			目標		

		授業方法(アクティブ・ラ	授業時間以外
回数	授業テーマ・授業内容	ーニングの方法)、使用教	の必要な学修
		材等	【予習・復習】
	本研究のデータ分析のまとめと考察	プレゼンテーション	データ分析
1~3		ディスカッション	結果の解釈と
			考察
4~	修士論文の執筆	プレゼンテーション	考察をまとめ
14		ディスカッション	論文を執筆す
14			る
	口頭での研究発表	プレゼンテーション	発表練習と資
15		ディスカッション	料作成
10			

- ・論文における論理の明確さ(5%)
- ・データとそれに対する考察の明証性(80%)
- ・プレゼンテーションにおける説明力(10%) これらについて評価します。
- ※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。